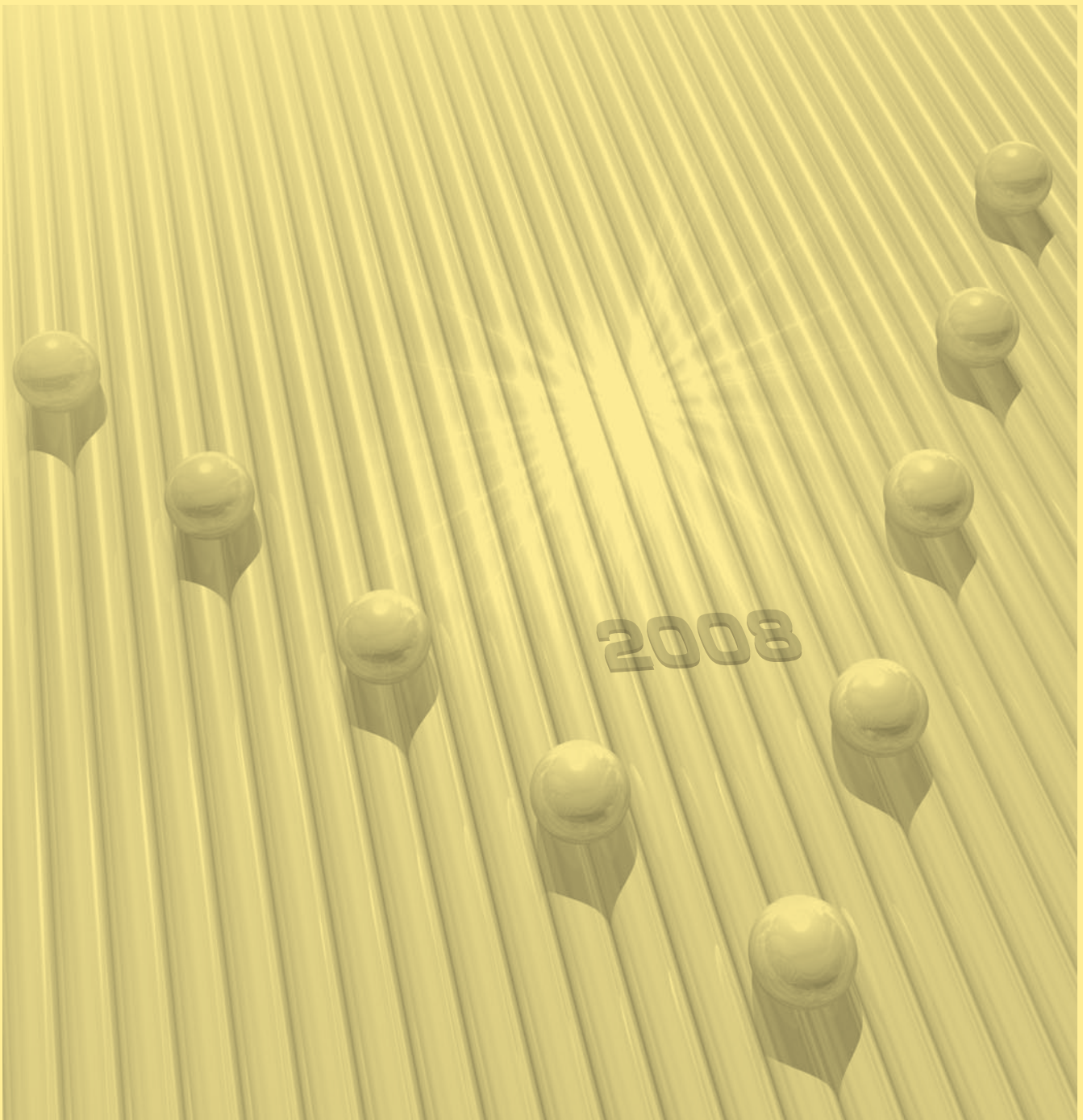


2008年度

シラバス

免許課程



獨協大学

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

科目の授業内容は、目次で検索してください。目次は対象者別（入学年度により異なる）の、カリキュラム順に掲載されています。

曜日時限も記載されていますが、変更等があるので受講の際は、教務課で確認をしてください。

（ホームページでも確認することができます。）

履修開始学年は、目次の「学年」欄に、「学期」は()内に記載されています。

※目次の「備考」の表記

外：外国語学部生 国教：国際教養学部生 経：経済学部生 法：法学部生

① 適用年度	② 科目名	③ 担当者
④ 講義目的	講義概要	⑤ 授業計画
【春学期】		第1週
		第2週
		第3週
		第4週
		第5週
		第6週
		第7週
		第8週
		第9週
		第10週
		第11週
		第12週
		第13週
⑥ テキスト	参考文献	⑦ 評価方法

***上段は、春学期科目です。**

- ①② 入学年度により科目が異なります。
※該当科目がない場合は「***」で表示されます。
- ③ 担当教員氏名
- ④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
- ⑤ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。
- ⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
- ⑦ 半期完結科目は春学期終了時におよび秋学期終了時に成績評価が出ます。

① 適用年度	② 科目名	③ 担当者
④ 講義目的	講義概要	⑤ 授業計画
【秋学期】		第1週
		第2週
		第3週
		第4週
		第5週
		第6週
		第7週
		第8週
		第9週
		第10週
		第11週
		第12週
		第13週
⑥ テキスト	参考文献	⑦ 評価方法

***下段は、秋学期科目です。**

各項目については、春学期と同一です。

※免許の履修に際しては、「履修の手引き」（免許課程のページ）および「2008年度時間割表」を参照してください。

注意

国際教養学部への1・2年生へ

◎教職科目を履修する場合は国際教養学部科目を履修してください。
卒業要件単位に含まれると同時に、教職科目の単位としてカウントすることができます。

◎全学共通授業科目と合併している教職科目または国際教養学部科目を履修しても、全学共通授業科目の単位にはなりません。全学共通授業科目の単位として履修する場合は、全学共通授業科目を登録しますが、重複履修はできませんので注意してください。

《参考例》

教職科目「社会学概説Ⅰ」を履修すると、全学共通授業科目「社会学a」および国際教養学部科目「多文化共生研究Ⅲ」は履修できません。逆も同様です。

教職課程 合併科目一覧

【教職科目と国際教養学部科目の合併】

教職科目	国際教養学部科目	学期	曜日	時限	担当者
教職論	教育科学研究Ⅳ (教職論)	春	月	4	臼井 智美
		秋	月	5	
		秋	火	3	川村 肇
		秋	木	2	
教育原論	教育科学研究Ⅰ (教育の原理)	春	火	3	川村 肇
		春	木	2	
		春	月	1	小島 優生
		秋	水	2	
教職心理学	教育科学研究Ⅴ (発達と学習の心理学)	春	金	1	田口 雅徳
		秋	金	1	
		秋	水	1	森川 正大
		春	火	4	
教育制度	教育科学研究各論Ⅰ (比較教育制度論)	春	月	5	臼井 智美
		秋	月	4	
		春	火	3	小島 優生
教育課程論	教育科学研究各論Ⅱ (教育課程論)	秋	月	5	林 尚示
		春	水	2	安井 一郎
		春	木	3	
学校カウンセリング	教育科学研究各論Ⅴ (学校カウンセリング)	春	木	4	鈴木 乙史
		秋	木	4	
		春	水	1	森川 正大

【教職科目と全学共通授業科目、国際教養学部科目の合併】

教職科目	全学共通授業科目	国際教養学部科目	学期	曜日	時限	担当者
社会学概説Ⅰ	社会学a	多文化共生研究Ⅲ(社会学a)	春	土	1	岡村 圭子
社会学概説Ⅱ	社会学b	多文化共生研究Ⅳ(社会学b)	秋	土	1	
倫理学概説Ⅰ	倫理学a	宗教・文化・歴史研究Ⅵ(倫理学a)	春	火	2	松丸 壽雄
倫理学概説Ⅱ	倫理学b	宗教・文化・歴史研究Ⅶ(倫理学b)	秋	火	2	
心理学概説Ⅰ	ことばと思想Ⅰ (こころの世界)	教育科学研究Ⅵ(こころの世界)	春	木	2	田口 雅徳
心理学概説Ⅱ	ことばと思想Ⅳ (心理検査法とこころの健康)	教育科学特殊研究Ⅲ (心理検査法と自己理解)	秋	木	2	田口 雅徳

※教職科目以外の時間割コードは、自学科の時間割冊子を参照してください。

目次

(2007・2008年度 入学者適用科目)

【教職課程】 ー 教職に関する科目 ー

科目名	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
教職論	春	月	4	臼井 智美	2	1(1)	国教は履修不可	1
	秋	月	5					2
	秋	火	3	川村 肇	2	1(1)	"	2
	秋	木	2					2
教育原論	春	火	3	川村 肇	2	1(1)	"	3
	春	木	2					2
	春	月	1	小島 優生	2	1(1)	"	4
	秋	水	2					2
教職心理学	春	金	1	田口 雅徳	2	1(1)	"	5
	秋	金	1					2
	秋	水	1	森川 正大	2	1(1)	"	6
	春	火	4					2
教育制度	春	月	5	臼井 智美	2	2(3)		8
	秋	月	4					2
	春	火	3	小島 優生	2	2(3)		9
	秋	月	5					2
教育課程論	秋	月	5	林 尚示	2	2(3)		10
	春	水	2					2
	春	木	3	安井 一郎	2	2(3)		11
	秋	水	3					2
英語科教科教育法Ⅰ	秋	水	3	安間 一雄	2	2(3)	外は履修不可	13
社会科教育法Ⅰ	秋	火	2	秋本 弘章	2	2(3)		19
地理・歴史科教育法Ⅰ	秋	土	1	鈴木 孝	2	2(3)		21
道徳教育の研究	春	月	3	小島 優生	2	2(3)		29
	秋	月	1					2
	春	火	5	安井 一郎	2	2(3)		30
	春	金	2					2
特別活動	春	金	3	小川 輝之	2	2(3)		31
	秋	月	4					2
教育方法学	春	火	2	町田 喜義	2	2(3)		33
	秋	火	2					2
	春	月	4	安井 一郎	2	2(3)		34
	春	水	3					2
生徒指導法	秋	金	3	小川 輝之	2	2(3)		35
	秋	月	3					2
学校カウンセリング	春	木	4	鈴木 乙史	2	2(3)		37
	秋	木	4					2
	春	水	1	森川 正大	2	2(3)		38
	秋	水	1					2
介護ボランティアの理論と実践	秋	水	1	新井 利民	2	2(3)		55
	秋	水	2					2
	春	水	4	小川 孔美	2	2(3)		56
	春	水	5					2

目 次

【教職課程】 教科に関する科目

科目名	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
日本史概説Ⅰ	春	月	4	會田 康範	2	1(1)		57
日本史概説Ⅱ	秋	月	4		2	1(1)		
外国史概説Ⅰ	秋	金	1	兼田 信一郎	2	1(1)		58
外国史概説Ⅱ	春	金	3	久慈 栄志	2	1(1)		59
地理学概説Ⅰ	春	月	2	秋本 弘章	2	1(1)		60
地理学概説Ⅱ	秋	月	2		2	1(1)		
地誌学概説Ⅰ	春	水	1		2	1(1)		61
地誌学概説Ⅱ	秋	水	1		2	1(1)		
法律学概説Ⅰ	春	木	5		2	2(3)	経・法は履修不可	
法律学概説Ⅱ	秋	木	5	2	2(3)	〃		
政治学概説Ⅰ	春	木	4	山口 晃	2	2(3)	経・法は履修不可	63
政治学概説Ⅱ	秋	木	4		2	2(3)	〃	
社会学概説Ⅰ	春	土	1	岡村 圭子	2	1(1)	国教は履修不可	64
社会学概説Ⅱ	秋	土	1		2	1(1)	〃	
哲学概説Ⅰ	春	火	5	河口 伸	2	2(3)		65
哲学概説Ⅱ	秋	火	5		2	2(3)		
倫理学概説Ⅰ	春	火	2	松丸 壽雄	2	1(1)	国教は履修不可	66
倫理学概説Ⅱ	秋	火	2		2	1(1)	〃	
宗教学概説Ⅰ	春	木	5	河口 伸	2	2(3)		67
宗教学概説Ⅱ	秋	木	5		2	2(3)		
心理学概説Ⅰ	春	木	2	田口 雅徳	2	1(1)	国教は履修不可	68
心理学概説Ⅱ	秋	木	2		2	2(3)		

目次

(2003～2006年度 入学者適用科目)

【教職課程】 -- 教職に関する科目 --

科目名	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
教職論	春 秋	月 月	4 5	臼井 智美	2	1(1)		1
	秋	火	3	川村 肇				2
教育原論	春 春 春	火 木 月	3 2 1	川村 肇	2	1(1)		3
	秋	水	2	小島 優生				2
教職心理学	春 秋	金 金	1 1	田口 雅徳	2	1(1)		5
	秋	水	1	森川 正大				2
	春	火	4	横田 雅弘				6 7
教育制度	春 秋	月 月	5 4	臼井 智美	2	2(3)		8
	春	火	3	小島 優生				2
教育課程論	秋	月	5	林 尚示	2	2(3)		10
	春	水	2	安井 一郎				2
	春	木	3					11
ドイツ語科教科教育法Ⅰ	春	月	5	本多 喜三郎	2	3(5)		12
ドイツ語科教科教育法Ⅱ	秋	月	5		2			
英語科教科教育法Ⅰ	春	木	5	鈴木 英一	2	3(5)		14
英語科教科教育法Ⅱ	秋	火	5	浅岡 千利世	2			
英語科教科教育法Ⅰ	春	木	1	木村 恵	2	3(5)	受講者多数の 場合は調整	15
英語科教科教育法Ⅱ	秋	木	1		2			
英語科教科教育法Ⅰ	春	金	1	清水 由理子	2	3(5)		16
英語科教科教育法Ⅱ	秋	金	1		2			
英語科教科教育法Ⅰ	春	火	5	町田 喜義	2	3(5)		17
英語科教科教育法Ⅱ	秋	木	5	J. J. ダゲン	2			
フランス語科教科教育法Ⅰ	春	木	1	中村 公子	2	3(5)		18
フランス語科教科教育法Ⅱ	秋	木	1		2			
社会科教育法Ⅰ	秋	火	2	秋本 弘章	2	2(3)		19
社会科教育法Ⅱ	春	火	1		2			
社会科教育法Ⅲ	秋	火	1		2	3(5)		20
地理・歴史科教育法Ⅰ	秋	土	1	鈴木 孝	2	2(3)		21
地理・歴史科教育法Ⅱ	秋	木	1	秋本 弘章	2	3(5)		22
地理・歴史科教育法Ⅲ	春	月	5	會田 康範	2	3(5)		23
公民科教育法Ⅰ	春	金	4	小川 輝之	2	3(5)		24
公民科教育法Ⅱ	秋	金	4		2			
情報科教育法Ⅰ	春	木	2	秋本 弘章	2	3(5)		25
情報科教育法Ⅱ	秋	木	2		2			

科目名	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
教科教育法特論Ⅰ	春	火	4	安井 一郎	2	3(5)		26
教科教育法特論Ⅱ	秋	水	1	浅岡 千利世	2	3(5)		27
	秋	木	4	J. J. ダゲン				28
道徳教育の研究	春	月	3	小島 優生	2	2(3)		29
	秋	月	1					
	春	火	5	安井 一郎				30
特別活動	春	金	2	小川 輝之	2	2(3)		31
	春	金	3					
	秋	月	4	安井 一郎				32
教育方法学	春	火	2	町田 喜義	2	2(3)		33
	秋	火	2					
	春	月	4	安井 一郎				34
生徒指導法	春	水	3	小川 輝之	2	2(3)		35
	秋	金	3					
	秋	月	3	林 尚示				36
学校カウンセリング	春	木	4	鈴木 乙史	2	2(3)		37
	秋	木	4					
	春	水	1	森川 正大				38
総合演習	春	火	2	秋本 弘章				39
	春	水	2	小島 優生				40
	秋	木	4	渋谷 英章				41
	秋	金	4	田口 雅徳	2	3(5)	受講者多数の 場合は抽選	42
	秋	月	4	林 尚示				43
	春	水	1	安井 一郎				44
	秋	水	1					
	秋	金	2	和田 智				45
教育実習論Ⅰ(事前指導)	春	月	1	秋本 弘章				46
	秋	金	2	小川 輝之	2	3(5)		47
	秋	水	3					
	秋	月	3	川村 肇				48
	秋	火	3	小島 優生				49
	秋	火	4	安井 一郎				50
教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	月	1	秋本 弘章		4(8)		51
	秋	月	3	川村 肇				52
	春	月	2	小島 優生	2	4(7)		53
	秋	火	3					
	秋	火	5	安井 一郎		4(8)		54
介護ボランティアの理論と実践	秋	水	2					
	秋	水	1	新井 利民	2	2(3)		55
	秋	水	2					
	春	水	4	小川 孔美	2	2(3)		56
	春	水	5					
教育実習Ⅰ	集中	-	-	-----	2	4(7)	※	---
教育実習Ⅱ	集中	-	-	-----	2			---

※2008年度教育実習予定者は必ず登録すること

目 次

(2003～2006年度 入学者適用科目)

【教職課程】 -- 教科に関する科目 --

科目名	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
日本史概説Ⅰ	春	月	4	會田 康範	2	1(1)		57
日本史概説Ⅱ	秋	月	4		2	1(1)		
外国史概説Ⅰ	秋	金	1	兼田 信一郎	2	1(1)		58
外国史概説Ⅱ	春	金	3	久慈 栄志	2	1(1)		59
地理学概説Ⅰ	春	月	2	秋本 弘章	2	1(1)		60
地理学概説Ⅱ	秋	月	2		2	1(1)		
地誌学概説Ⅰ	春	水	1		2	1(1)		61
地誌学概説Ⅱ	秋	水	1		2	1(1)		
法学概説Ⅰ	春	木	5	内山 良雄	2	2(3)	経・法は履修不可	62
法学概説Ⅱ	秋	木	5		2	2(3)	〃	
政治学概説Ⅰ	春	木	4	山口 晃	2	2(3)	経・法は履修不可	63
政治学概説Ⅱ	秋	木	4		2	2(3)	〃	
社会学概説Ⅰ	春	土	1	岡村 圭子	2	2(3)		64
社会学概説Ⅱ	秋	土	1		2	2(3)		
哲学概説Ⅰ	春	火	5	河口 伸	2	2(3)		65
哲学概説Ⅱ	秋	火	5		2	2(3)		
倫理学概説Ⅰ	春	火	2	松丸 壽雄	2	2(3)		66
倫理学概説Ⅱ	秋	火	2		2	2(3)		
宗教学概説Ⅰ	春	木	5	河口 伸	2	2(3)		67
宗教学概説Ⅱ	秋	木	5		2	2(3)		
心理学概説Ⅰ	春	木	2	田口 雅徳	2	2(3)		68
心理学概説Ⅱ	秋	木	2		2	2(3)		

目 次

(2003年度以降 入学者適用科目)

【司書課程】

科目名	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
生涯学習概論	秋	木	5	渋谷 英章	2	2(3)		69
図書館概論	春	木	1		2	2(3)		70
図書館サービス論	春	木	4	井上 靖代	2	2(3)		71
図書館経営論	秋	木	4		2	2(3)		
情報サービス論a	春	月	2		2	3(5)	受講定員あり	
	春	月	3	福田 求				72
情報サービス論b	秋	月	2		2	3(5)	"	
	秋	月	3					
情報検索演習	春	火	3	福田 求				73
	春	火	4		2	3(5)	"	
	秋	月	1	堀江 郁美				74
図書館資料論	春	金	2	井上 靖代	2	2(3)		75
専門資料論	春	月	5		2	2(3)		76
資料組織概説	春	月	4		2	3(5)		
資料組織演習	秋	月	4	松下 鈞				77
	秋	月	5		2	3(5)	受講定員あり	
児童サービス論	秋	木	1	井上 靖代	2	2(3)		78
図書及び図書館史	秋	金	2		2	2(3)		79
資料特論	春	木	2	千葉 治	2	3(5)		80
コミュニケーション論	秋	火	5	町田 喜義	2	2(3)		81
図書館特論	秋	木	2	千葉 治	2	3(5)	受講定員あり	82

(全学生 共通)

【司書教諭課程】

科目名	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
学校経営と学校図書館	春	金	1		2	2(3)	受講定員あり	83
学校図書館メディアの構成	秋	木	3	井上 靖代	2	2(3)		
学習指導と学校図書館	秋	金	1		2	2(3)		84
読書と豊かな人間性	春	木	3		2	2(3)	受講定員あり	
情報メディアの活用	秋	火	3	福田 求	2	2(3)		85
	秋	火	4		2	2(3)		

お知らせ

教職・司書相談室について

獨協大学では教職、司書、司書教諭課程履修者を強かにサポートするため、中央棟1階に教職・司書相談室を開設しています。

ここには教職、司書、司書教諭課程に関する資料や教科書・参考書が用意されています。これらは開室時間内に閲覧可能です。

また、同課程履修者を主たる対象に、専門家である教員が個別面談に応じています。教員という仕事、気になる教育実習や教員採用試験、図書館で働くにはどうすれば良いか、など気になることを質問できます。

もちろん、教職、司書、司書教諭課程を登録・履修するか迷っている学生も質問可能です。学科・学年を問わず広く開放されていますので、適宜利用してください。

・場 所：中央棟1階教務課向かい

・開室時間：月～金曜日 9:00～17:00、土曜日 9:00～12:00

〔個別面談時間〕

	曜 日	時 間	担 当 者
教 職	月 曜	11:30～13:00	安井 一郎
	火 曜	11:30～13:00	小島 優生
	水 曜	11:30～13:00	小川 輝之
	木 曜	11:30～13:00	町田 喜義
司書・司書教諭	火 曜	11:30～13:00	福田 求 ※

※ 司書・司書教諭の個別面談は、5-203教室で行います。

03 年度以降	教職論	担当者	臼井 智美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 本講義では、教職の意義と内容について学ぶことを目的としている。本講義を通じて、教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識を習得することを目標としている。また、講義をきっかけとして、世の中の教育をめぐる話題や動きに関心を持つようになることを期待している。</p> <p>【講義概要】 本講義では、主に2つの観点から教職について理解を深めていく。1つは、教職をめぐる制度についての理解であり、もう1つは、教員の職務内容についての理解である。また、近年の激しい教育改革の動きなどについても、テキストだけでなく、中教審等の各種審議会や検討会議の答申、報告書なども用いながら理解を深めていく。 本講義では、毎回、授業開始時に出席票を配布するが、出席票では、出席状況と授業の理解度を確認するために、授業の感想のほか、授業内容に関連したテーマについて意見を記入してもらう予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 教師を見る社会のまなざしと教職観の変遷 3. 教員の資質・能力 4. 教員養成と教員免許の制度 5. 教員の研修と力量形成 6. 教員の身分と服務 7. 教員の職務と役割 (1) 教員の仕事をを知る① 8. 教員の職務と役割 (2) 教員の仕事を知る② 9. 教員の職務と役割 (3) 学級経営 10. 教員の職務と役割 (4) 校務分掌と学校経営 11. 教員の職務と役割 (5) 開かれた学校づくり 12. 教職キャリア複線化の試み 13. 教員の質の向上と教員評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤晴雄『教職概論 第2次改訂版—教師を目指す人のために』学陽書房、八尾坂修『教員をめざす人の本』成美堂出版、その他は随時授業中に配布、紹介する。		出席状況 (7割以上の出席を求める) (25%)、出席票の記入状況 (25%)、期末テストの結果 (50%) によって総合的に判断し評価する。	

03 年度以降	教職論	担当者	臼井 智美
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教職論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職の意義と教職に就く心構えを学び、さまざまな角度から教育に対する見方を鍛えることを目標とします。</p> <p>【概要】 1. 「学級崩壊」「いじめ」「体罰」など、現代教育の抱えている諸問題を取り上げて、実態をビデオ等により確認し、参加者で討議します。 こうした問題への教師の取り組みを考えるを通し、教職の意義及び教員の役割及び教員の職務内容を学びます。</p> <p>2. 進路選択に資する各種の機会の提供を行います。</p> <p>3. 諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、教職の役割を明確にすることで、今後の学習につなげていく道筋を理解していきます。特に体罰については、その問題点をきちんと理解することを求めます。</p> <p>【要望】 ・ビデオを見たり、グループ討議を取り入れるので、遅刻や欠席は避けてください。 ・右の講義計画は、討論の進み具合等によって、変更することがあります。</p>		<p>1 講義の進め方の説明／本学で教職免許状が取得できる理由/教職の意義と役割</p> <p>2 学級崩壊を考える（実態把握）／宿題：学級崩壊への対処について</p> <p>3 学級崩壊を考える（グループ討論）</p> <p>4～5 学級崩壊を考える（グループ討論の発表）／宿題：少年法改正について</p> <p>6 ADHDを考える（実態把握）／宿題：ADHDから学ぶこと・体罰について（その1）</p> <p>7 体罰を考える（グループ討論）</p> <p>8 体罰を考える（体罰に関する理論的問題）</p> <p>9 体罰を考える（実態把握）／宿題：体罰について（その2）</p> <p>10 いじめを考える（実態把握）／宿題：いじめへの対処について</p> <p>11～12 いじめを考える（グループ討論）</p> <p>13 教員の職務内容（研修、サービス、身分保障）について</p> <p>14 様々な進路選択の問題を考える</p> <p>15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント類によります。参考文献は適宜紹介します。		期末レポートと数回の小レポートを総合評価します。	

03 年度以降	教育原論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養います。</p> <p>授業の概要</p> <p>1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学びます。</p> <p>2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていきます。</p>		<p>1 講義の進め方の説明</p> <p>2 学力問題の国際比較（学力調査について）</p> <p>3 学力問題の国際比較（ドイツの事例）</p> <p>4 学力問題の国際比較（フィンランドの事例）</p> <p>5 系統学習と問題解決学習について</p> <p>6 学習の理論</p> <p>7～9 戦後教育と教育思想の歴史</p> <p>10 能力を考える（教育基本法第3条）</p> <p>11 教育における競争と自由の問題を考える</p> <p>12 子どもの権利条約の精神（保護と参加／3つのP）</p> <p>13 子どもに固有の権利と人権との関係</p> <p>14 子どもとはどういう存在か（系統発達と子どもの発見）</p> <p>15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ポケット版 子どもの権利ノート』（300円）／参考文献は適宜紹介します。		期末試験結果に、感想文や小レポートの提出、実施した場合には小テストの点数等を加味します。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育原論	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●目的 教職課程履修者が最初に受講するものとして設定している。したがって、教職課程の基礎理論として、歴史・思想や教育行政などを対象に、現在の教育動向も絡めながらひろく解説し、導入とする。</p> <p>●概要 ・できるかぎり新聞やビデオなども素材としつつ、学力やカリキュラム、権利条約や日本国憲法、教育基本法などの理念と実態について概説する。 ・学生同士の議論の場を設けたいので、積極的に発言してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義についてのガイダンス（教師という仕事について考える） 2. 獨協大学で免許が取れる理由と免許更新制 3. 戦後教育の歴史 4. 戦後教育から現在の教育改革へ 5. 学校は必要か 6. オールラウンドの日本の学校 7. 「学力」を問う① 8. 「学力」を問う② 9. 「教える」を問う① 10. 「教える」を問う② 11. 子どもの権利条約 12. 公教育制度① 13. 公教育制度② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		学年末のテスト、レポート、および発言などを総合的に評価する。	

03年度以降	教育原論	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教職心理学	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日、日本の教育環境は大きな転換点にさしかかっている。こうした状況の中で、教育心理学においてこれまで得られてきた知見が、学校教育における子どもの理解や指導にどのように役立ちうるのかを受講者と共に考えていきたい。本講義の授業概要は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職心理学とはなにか？ 2. 教育評価と学力問題 3. 学習の動機付け 4. 発達障害の理解と教育 		<p>本講義の授業計画は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の領域と歴史的展開 2. 教育測定と教育評価 3. 教育評価の方法 4. 教育評価と学力問題 5. 学習の原理 6. 学習における動機付け 7. 学習意欲と原因帰属 8. 学習意欲と目標理論 9. 教師の期待と学習の成果 10. 発達期と発達課題 11. 発達と障害 12. 障害の理解と対応① 13. 障害の理解と対応② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない		出席、小レポート、試験により評価する。	

03年度以降	教職心理学	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教職心理学	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は、「こども」から「おとな」へと変化する存在であり、その過程は、家庭、学校、および社会による教育機能に支えられる。</p> <p>教育は、人間の「発達」および「学習」の過程にかかわるはたらきであるが、この科目は、学校教育の心理学的基礎として、乳幼児期から青年期までの心身の発達と学習の過程について学び、かつ、青年期の「こども」にかかわる教師の役割について理解を深めることを目標とする。また、学習障害、発達障害、その他、障害のある「こども」の心身の発達および学習の過程についてもとり上げる。</p> <p>講義のほか、自己理解、他者理解を深めるための簡単なワークを取り入れ、生徒とのリレーション、教師のあり方についても考える機会としたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校・生徒の現状と学校教育の課題 2. 教育心理学の課題 3. 人間の成長と発達の原理 4. 発達段階と発達課題 5. 児童期までの発達 6. 青年期までの発達 7. 社会性・道徳性の発達 8. 学習の原理 9. 内発的動機づけと学習意欲 10. 個人差と教育／障害のある生徒と教育の課題 11. アイデンティティの形成 12. 教育測定と評価 13. 教師の自己点検／まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。プリントによる。 参考文献は必要に応じて示す。</p>		<p>出席状況、授業中に課す提出物（「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など）、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。</p>	

03 年度以降	教職心理学	担当者	横田 雅弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は二つの狙いをもつ。第一の狙いは、実際に教職についてたときに役立つ心理学の知識を身につけることである。ただし、教職で必要となる心理学の知識を半年間で網羅することは不可能である。むしろ、単に知識を暗記するのではなく、それらの知識を通して教職という仕事についての自分なりの考え方を確立してほしい。</p> <p>第二の狙いは、教師としての自分自身を知ることである。特に初等・中等教育の教師は子供たちと全人格的に交わるのであり、そのときに自分が教師として、あるいは人間としてどのような特性をもっているのか、どのような教師になりたいと思っているのか、そのために自分のどこを活かし、どこをよりのばしていかなければならないかを知っていることが大切である。授業はこの自分理解の手助けを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 発達と教育(1):発達観(講義とグループ・ディスカッション) 3. 発達と教育(2):発達の理論 4. 交流分析の講義と自己分析 5. 自己モニタリングとアサーション・テストによる自己分析 6. グループ・ディスカッション=教師の自己表現 7. グループ・ディスカッション=自分にとってのなりたい教師像、教師としての自分の強みと弱みの自己分析 8. 学習と学習指導 (1):学習理論、動機づけ理論 9. 学習と学習指導 (2):創造性、学習障害 10. 不適応と防衛の心理機制 11. カウンセリングの基礎知識 12. グループ・ディスカッション=ケース・スタディ 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しない。パワーポイント等の資料を配布する。</p>		<p>評価は自己分析レポート (A4 ワープロ 2 枚) 40%、学期末試験 (持ち込み不可) 40%、出席 20%にて評価する。いずれも厳しく評価するので覚悟の上で参加すること。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育制度	担当者	臼井 智美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 本講義では、日本の学校教育を成り立たせている制度について概要を学ぶとともに、学校教育制度の意義と課題について理解を深めることを目的としている。また、他国の教育制度との比較を通じて、教育と文化とのつながりについても理解を深めてもらいたい。</p> <p>【講義概要】 本講義では、主に2つの観点から学校教育制度について理解を深めていく。1つは、日本の教育制度について、その歴史や対象領域を学ぶことである。もう1つは、他国の学校教育制度について概要を知り、日本との相違点やその背景、要因について理解を深めることである。他国の例としては、近年、日本の公立学校に多く在籍している外国人児童生徒の出身国であるブラジルや中国、フィリピンなどを取り上げる予定である。</p> <p>本講義では、毎回、授業開始時に出席票を配布するが、出席票では、出席状況と授業の理解度を確認するために、授業の感想のほか、授業内容に関連したテーマについて意見を記入してもらう予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 日本の教育制度 (1) 公教育制度を支える思想と原理 3. 日本の教育制度 (2) 学校教育制度の概観 4. 日本の教育制度 (3) 学校教育制度 5. 日本の教育制度 (4) 教育課程制度 6. 日本の教育制度 (5) 教育行財政制度 7. 日本の教育制度 (6) 改革の現状と課題① 8. 日本の教育制度 (7) 改革の現状と課題② 9. 教育制度と文化 (1) 制度の違いを生む文化の役割 10. 諸外国の教育制度 (1) ブラジル 11. 諸外国の教育制度 (2) 中国 12. 諸外国の教育制度 (3) フィリピン 13. 教育制度と文化 (2) 制度の違いから学ぶ文化の意義 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤順一編著『現代教育制度』学文社、二宮皓『世界の学校—教育制度から日常の学校風景まで』学事出版、その他は随時授業中に配布、紹介する。		出席状況 (7割以上の出席を求める) (25%)、出席票の記入状況 (25%)、期末テストの結果 (50%) によって総合的に判断し評価する。	

03 年度以降	教育制度	担当者	臼井 智美
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育制度	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教師となるにあたって必要となる学校や教師を取り巻く様々な法や制度について、基本的な理解をすると同時に昨今の教育改革動向について自身の意見を持つことを目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方 2. 学校の制度と組織 3. 教室内の制度と組織 4. 私立学校の制度と組織 5. 日本の公教育制度 6. 日本の中央・地方の教育行政 7. アメリカの教育制度 8. アジアの教育制度 9. 在日外国人の教育と人権 10. ジェンダーと女子教育 11. 不登校とオルタナティブ 12. 教育情報と情報公開 13. 我が国の教育制度改革 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		テストとレポート、出席等を総合的に評価します。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育課程論	担当者	林 尚示
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>教育課程論は、次の2つの力を学生に修得させることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での教育課程に関する課題について分析及び検討ができる力。 ・学校で教育課程の作成業務を遂行するための方法及び技術。 <p>講義概要</p> <p>テキスト『実践に活かす教育課程論・教育方法論』を使用し、講義形式で、教育課程について説明する。さらに、単元計画や学習指導案を試行的に作成することを内容に含む個別学習も行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の概要説明 2 教育課程の基本原則 1 3 教育課程の基本原則 2 4 学習指導要領 1 5 学習指導要領 2 6 教育課程と学習内容 1 7 教育課程と学習内容 2 8 新しいカリキュラム 1 9 新しいカリキュラム 2 10 カリキュラム開発 1 11 カリキュラム開発 2 12 単元計画と学習指導案の作成演習 13 授業についての質疑応答とレポートの提出 	
テキスト、参考文献		評価方法	
樋口直宏, 林尚示, 牛尾直行編著『実践に活かす教育課程論・教育方法論』, 学事出版, 2002年。		出席回数, 授業時の学習態度, レポートによる総合評価。	

03年度以降	教育課程論	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程と学力問題 2 教育課程とは何か 3 日本の教育課程 4 教育課程編成の理論と方法(1) 5 教育課程編成の理論と方法(2) 6 教育課程編成の理論と方法(3) 7 学習指導要領と教育課程(1) 8 学習指導要領と教育課程(2) 9 学習指導要領と教育課程(3) 10 学習指導要領と教育課程(4) 11 次期学習指導要領の改訂動向 12 教育課程と評価 13 教育課程と学力問題再考 総合学習の可能性 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。		出席（7割以上）、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	ドイツ語科教科教育法 I	担当者	本多 喜三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語教授法に関する基礎知識は参考文献から得て欲しい。ここではドイツ語の初級文法で扱う主たる文法項目を取り上げて、その教授法を研究します。先ず受講生により思い通りに模擬授業を行ってもらい、問題点を議論します。「分かりやすい文法の教え方」を目指しますが、当然ながら「正解」はありません。与えられた条件の中で臨機応変に適切な教授法を工夫する能力を養うのが目的です。</p> <p>オリエンテーションで授業案の書き方や授業の進め方について話しますが、2回目の授業からは受講生による模擬授業を開始します。初回の授業で担当日を決めますので受講希望者は必ず出席して下さい。やむを得ず欠席する場合には予め知らせて下さい。</p> <p>模擬授業の実施時間は一人30分を予定していますが、受講生の人数によって変更する可能性があります。模擬授業の担当者は授業案を作成して授業を行い、その他の受講生は生徒役を演じると共に、配布された授業評価用紙に記入して模擬授業の評価をします。記入した授業評価用紙は模擬授業の担当者に返却されます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. アルファベット・単語の発音 3. 人称代名詞・動詞の現在人称変化 4. 名詞の性・数・格と冠詞 5. 命令法・再帰動詞 6. 話法の助動詞 7. 動詞の3基本形・過去人称変化 8. 完了形 9. 受動態 10. 形容詞の格変化 11. 関係代名詞 12. 接続法 I 13. 接続法 II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉島茂・境一三著『ドイツ語教授法』三修社 2003 年 G.Neuner/H.Hunfeld: <i>Methoden des fremdsprachlichen deutschunterrichts</i> Langenscheidt 1993		模擬授業、授業案、出席状況、レポート等による。	

03 年度以降	ドイツ語科教科教育法 II	担当者	本多 喜三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教壇実習によりドイツ語教授法の具体的なテクニックを習得するのが目的です。秋学期には共通のテキストに基づいて、ドイツ語のコミュニケーション能力の養成を目的とする模擬授業をやってもらいます。予め配布された授業評価用紙に記入して互いの授業を評価し合うだけでなく、一人30分の模擬授業の後に、10分の意見交換の時間を取る予定です。</p> <p>初回の授業で模擬授業の担当日を決めますので、受講希望者は必ず出席して下さい。やむを得ず欠席する場合には予め知らせて下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 模擬授業による教授法の研究 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤修子『Szenen 1 場面で学ぶドイツ語』三修社 2006 年 吉島茂・境一三著『ドイツ語教授法』三修社 2003 年		模擬授業、授業案、出席状況、レポート等による。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

07年度以降	英語科教科教育法 I	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語科指導に関わる教授法・学習理論・学習環境についてそれらの背景理論を習得することを目標とする。</p> <p>この授業では、まず教授法の歴史的変遷を辿りそれぞれの利点と欠点を明らかにする。次に学習者要因として第2言語発達の諸相を明らかにし、外国語学習への応用を検討する。さらに小学校での英語教育などの教育制度の課題や英語公用語化などの言語政策については是非を議論する。</p>		<p>第1回 シラバスとは</p> <p>第2回 教授法の変遷 (1): 文法訳読法, 直説法</p> <p>第3回 教授法の変遷 (2): オーディオリンガル法</p> <p>第4回 教授法の変遷 (3): コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第5回 教授法の変遷 (4): ナチュラル・アプローチ, 人間的アプローチ</p> <p>第6回 教授法の変遷 (5): イマージョンプログラム</p> <p>第7回 教授法の変遷 (6): Focus on form</p> <p>第8回 学習者の要因 (1): 性格・心理的傾向</p> <p>第9回 学習者の要因 (2): 動機付け</p> <p>第10回 学習者の要因 (3): 信念, アイデンティティ, コードスイッチング</p> <p>第11回 学習環境 (1): e-ラーニング</p> <p>第12回 学習環境 (2): 早期英語教育</p> <p>第13回 学習環境 (3): 社会における英語使用</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>P. Lightbown & N. Spada, <i>How Languages Are Learned</i>, 3rd ed. (Oxford University Press, 2006; ISBN-10: 0194422240; ISBN-13: 978-0194422246)</p>		<p>(定期試験 (60%) + 平常授業における課題 (40%)) x 出席率</p>	

03 年度以降	英語科教科教育法 I	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業は、英語という教科を中学校・高等学校で教えるための、外国語習得・外国語教授に関する理論と実践について学ぶことを目的とする。将来、教員になって実際に教壇で英語を教えることに備えて様々な事柄を身に付けておく必要があり、具体的な英語の授業を想定して指導内容と指導技術を学習することが望まれる。</p> <p>講義概要: 外国語習得・外国語教授に関する理論と実践を学ぶ際には、まず、外国語習得について母語の獲得と外国語の習得の違いを学習する。次に、外国語教授については、教授する言語材料、言語使用の4技能、教授方法、教授者の準備・教授・試験・評価という循環的な作業などを具体的に学習する。特に、英語教授法については様々な方法を批判的に検討し、教授内容を具体的に念頭におきながら、どのような教授方法がよいかを考えることが期待される。</p> <p>【注意】 なお、本授業は、受講学生数の偏りを避けるため、受講学生数が35名程度に制限される。受講希望学生は4月7日(土)の免許課程オリエンテーションに出席することが求められる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語教育の目的・目標 2. 英語の基礎知識 2. 日本の英語教育：中学・高校の指導要領の解説 3. 英語教授法(1)：文法訳読法、直接教授法 4. 英語教授法(2)：オーラルメソッド、オーラルアプローチ 5. 英語教授法(3)：コミュニカティブ・アプローチ 6. リスニングの指導 7. スピーキングの指導 8. リーディングの指導 9. ライティングの指導 10. 語彙の指導と辞書の利用 11. 文法の指導 12. テスティングと評価 13. 指導補助手段・機器 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『現代の英語科教育法』(英宝社, 2003) 参考文献：『英語科教育法—理論と実践』(開拓社), 『第2言語習得のメカニズム』(筑摩書房), 『新英語科教育法入門』(研究社), 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』(大修館書店)</p>		授業の準備状況、授業における発表、期末試験の成績、出席状況を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。	

03 年度以降	英語科教科教育法 II	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will survey different approaches, methods and techniques in English teaching. You will also examine your pre-existing beliefs about teaching and learning and explore how you may put your knowledge and beliefs into practice.</p> <p>Your presentations will be videotaped and there will be group tutorials outside the classrooms in order to discuss your lesson plans and teaching.</p> <p>You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p>		<p><u>Tentative Schedule</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, classroom language 2. Lesson planning 3. Individual presentations, Lesson planning 4. Individual presentations, Lesson planning 5. Micro-teaching 1 (Pair, one task) 6. Micro-teaching 1 7. Micro-teaching 1 8. Micro-teaching 2 (Group, one lesson) 9. Micro-teaching 2 10. Micro-teaching 2 11. Micro-teaching 2 12. Micro-teaching 2 13. Reflection and wrap-up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>講義支援システム使用 Please refer to <u>Kogi-shien System</u> whenever you miss a class which will be updated with the latest information.</p>		In-class work (attendance & presentations), a portfolio, lesson plans, tutorials and self/peer evaluation	

03 年度以降	英語科教科教育法 I	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>日本における英語教育の最新事情やさまざまな課題を知るとともに、それらを解決する方法を文献講読や受講者間のディスカッションを通じて探っていく。</p> <p>また、中学・高校の英語授業において効果的であると考えられる指導法や評価方法を、文献や授業映像から学ぶとともに、受講生にはそれらをより良くする改善案を考えてもらう。具体的な指導法のテクニック等を知ること、本授業の目的の一つである。</p> <p>[概要]</p> <p>授業においては、「知る」→「考える」→「共有する」という一連の流れを重視する。</p> <p>配布するプリントや紹介する書籍・授業映像を通じて、どのような英語教授法があるのかを知り、その長短所や改善点について受講生自らが積極的に考えることを期待する。そして、新しく知った教授法・評価法を実践できるようになることが望ましい。ただし、よりスキルを重視した「練習」は秋学期に集中的に行う。</p> <p>※ 受講定員が設けられているので注意すること ※ 4月上旬のオリエンテーションに参加すること</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス+ビデオ鑑賞 2. 日本における英語教育の歴史 (1) : その変遷 3. 日本における英語教育の歴史 (2) : 現状課題 4. 教授法 (1) : 効果的な導入方法 5. 教授法 (2) : 練習方法の種類 (1) 6. 教授法 (3) : 練習方法の種類 (2) 7. 教授法 (4) : 教科書の活用 8. 教授法 (5) : 教科書外教材の活用 9. 教授法 (6) : メディア機器の活用 10. 評価方法 (1) : 相対評価と絶対評価 11. 評価方法 (2) : 絶対評価を行うために 12. 授業の組み立て方 (1) : カリキュラムとシラバス 13. 授業の組み立て方 (2) : 指導案の作成 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト:</p> <p>『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 望月昭彦編著, 大修館書店</p>		<p>出席+授業活動への参加度+期末試験により評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。</p>	

03 年度以降	英語科教科教育法 II	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的]</p> <p>中学・高校における一時間の英語の授業を実践できる知識と技能を身につける。</p> <p>[概要]</p> <p>受講生による模擬授業 (micro-teaching) を中心に進めていく。</p> <p>毎回出される「テーマ」に則り、(1) 一時間分の授業の計画を立て、(2) 指導案を作成し、(3) その一部を授業内で披露する。模擬授業は全員が学期内に複数回実施すること、指導案は作成するたびに提出することが課せられる。</p> <p>各模擬授業に対して、担当教員と受講生が感想、アドバイスを与える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス+ビデオ鑑賞 2. 授業の組み立て方 : 指導案の作成方法 (1) 3. 授業の組み立て方 : 指導案の作成方法 (2) 4. 模擬授業 (1) 5. 模擬授業 (2) 6. 模擬授業 (3) 7. 模擬授業 (4) 8. 模擬授業 (5) 9. 模擬授業 (6) 10. 模擬授業 (7) 11. 模擬授業 (8) 12. 模擬授業 (9) 13. 模擬授業 (10) +まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト:</p> <p>『英語科教育実習ハンドブック』 米山朝二・杉山敏・多田茂, 大修館書店</p>		<p>出席+授業活動への参加度+授業指導案により評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。</p>	

03 年度以降	英語科教科教育法 I	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目的] これまでの言語教育における理論と実践方法の変遷をたどり、どのような試みがなされてきたかを概観し、日本における英語教育の現状とこれからの英語教育の在り方を考える。</p> <p>[概要] 文法中心の考え方からコミュニケーション能力育成を重視した授業形態が求められているなど、近年、英語教育現場にさまざまな変化が生じている。学習者として自分が受けてきた英語教育方法とは違う考え方ややり方を理解し、対応できるようになるにはどうしたらよいか考える。</p> <p>講義やビデオ教材などにより、語学教育に関する基本的な考え方や指導方法を紹介する。また、実際に教材を作るなど実践的な面も取り入れていく。</p> <p>4月5日(土)の教職課程ガイダンスに必ず出席し、登録申請用紙を提出すること。本年度の英語科教科教育法の受講者定員など、詳しいことは掲示を見てほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 授業の進め方、研究課題について 2. 日本における英語教育—変遷と現状— 3. Language Teaching Methodology (1) 4. Language Teaching Methodology (2) 5. Language Teaching Methodology (3) 6. Audio-Visual Aids (1) 7. Audio-Visual Aids (2) 8. Audio-Visual Aids (3) 教材作成 9. Testing and Evaluation (1) 10. Testing and Evaluation (2) 11. Testing and Evaluation (3) 教材作成 12. Planning Lessons (1) 13. Planning Lessons (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは定めないが、参考文献を授業中に紹介する。授業の Web ページも参照のこと。</p>		<p>授業回数の半分以上、遅刻せず出席することが必要。出席状況、レポートおよび期末試験による。</p>	

03 年度以降	英語科教科教育法 II	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 春学期の講義と実践を基に、授業一回分の指導案を作成し、その一部分を模擬授業として実践してみる。</p> <p>[講義概要] 模擬実習では1回分の授業の一部分を他の受講者を生徒に見立てて行うが、授業の全体像をまずしっかり捉えて欲しいので、video や DVD 教材を用いて1回分の授業の流れの組み立て方を学ぶ。</p> <p>その後、中学校または高等学校向けの学習指導案の作成とそれに基づく模擬実習を行う。実習とそれについての討議が中心となる。学期中の模擬実習の回数は、受講者数で変更することもある。</p> <p>また、<u>学外の公開研究授業</u>を見学し、そのレポートを提出してもらおう。詳しくは、授業時に説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. 授業の進め方 (1) 3. 授業の進め方 (2) 4. 模擬実習 ① 5. 模擬実習 ② 6. 模擬実習 ③ 7. 模擬実習 ④ 8. 模擬実習 ⑤ 9. 模擬実習 ⑥ 10. 模擬実習 ⑦ 11. 模擬実習 ⑧ 12. 模擬実習 ⑨ 13. 模擬実習 ⑩、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは定めないが、必要に応じて参考文献を紹介する。</p>		<p>授業回数の半分以上、遅刻せず出席することが必要。出席状況、レポートおよび期末試験による。</p>	

03 年度以降	英語科教科教育法 I	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育はコミュニケーションの一形態である。</p> <p>今学期は上記の概念を理解し、その上で英語という外国語（第二言語ではない）を、どのように連鎖させるかを解説する。</p>		<p>①講義概要説明</p> <p>②教育について</p> <p>③コミュニケーションについて</p> <p>④外国語と第二言語学習</p> <p>⑤英語と日本語</p> <p>⑥コミュニケーションと統語論</p> <p>⑦コミュニケーションと意味論</p> <p>⑧コミュニケーションと語用論</p> <p>⑨授業設計</p> <p>⑩教師と視聴覚メディア</p> <p>⑪測定と評価</p> <p>⑫相対評価と絶対評価</p> <p>⑬まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献リストを配付する。その中からトピックに関連する内容をコピーして使用する。		出席点、レポート、定期試験	

03 年度以降	英語科教科教育法 II	担当者	J.J. DUGGAN
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach) involved in teaching a successful language class, built on an understanding of the approaches, concepts, and reasoning on which foreign language education is based as presented in the first semester.</p> <p>This course will be devoted to student in-class practice teaching based on the material covered in the first semester, and incorporating practical teaching techniques that will be covered in reading and lecture.</p> <p>We will first look at materials and techniques used in teaching the various language skills, and then develop a lesson plan making use of said techniques.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Course Introduction, Decide presentation schedule</p> <p>Week 2: Teaching Grammar--Lecture, Activities</p> <p>Week 3: Teaching Grammar--Student presentations</p> <p>Week 4: Teaching Reading--Lecture, Activities</p> <p>Week 5: Teaching Reading--Student presentations</p> <p>Week 6: Teaching Writing--Lecture, Activities</p> <p>Week 7: Teaching Writing--Student presentations</p> <p>Week 8: Teaching Listening--Lecture, Activities</p> <p>Week 9: Teaching Listening--Student presentations</p> <p>Week 10: Teaching Oral Communication--Lecture, Activities</p> <p>Week 11: Teaching Oral Communication--Student presentations</p> <p>Week 12: Course Review, Make-up presentations</p> <p>Week 13: Course Review, Make-up presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hubbard, P. et al., <i>A Training Course for TEFL</i> . (Oxford Univ. Press.) Handouts.		Grades are based on in-class participation, a number of assignments, a presentation, and a final paper.	

03 年度以降	フランス語科教科教育法 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>< 講義目的 > 言語教育に携わっていく上で必要な基礎知識と教育実習に必要な事柄の習得。また日本におけるフランス語教育および言語教育の現状と「これから」について考える。</p> <p>< 講義概要 > フランス語教育の歴史的変遷や教材、教室活動、教案の書き方、評価の仕方などを紹介する。主に講義形式となるが、教材分析や教案の作成などグループ作業や個人作業も取り入れる。講義内容をまとめたノートを各自作成すること。</p> <p>< 注意！ > 教育実習を行う前年、3年次で履修すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. コースデザイン、シラバスデザイン、カリキュラムデザイン 3. 教案の書き方 4. 言語教育における教授法の歴史的変遷 1 5. 言語教育における教授法の歴史的変遷 2 6. 教材分析 1 7. 教材分析 2 8. 教室活動 1 9. 教室活動 2 10. 教材、教具の種類とその選択について 11. 授業実践のための準備とまとめ 12. 評価について 13. まとめ <p style="text-align: right;">(順不同)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各テーマに応じて授業中に指示する。		出席（無遅刻無欠席が原則）と授業参加態度。授業中の講義内容ノート、授業での発表、課題、レポート等での総合評価。	

03 年度以降	フランス語科教科教育法 II	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>< 講義目的 > 教壇に立つための訓練を通して、教師の役割、授業準備や教室活動の実際、授業を行う際の注意点や問題点などについて考える。</p> <p>< 講義概要 > 毎回、学生による模擬授業を行う。 「教案作成→授業準備→授業実施→評価と反省 →次回克服する課題を決める→個別指導」 上記のような流れになる。短時間の模擬授業を各自数回行う予定。回数と持ち時間は受講者数によるので秋学期の最初の授業時に決める。</p> <p>< 注意！ > 教育実習を行う前年、3年次で履修すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：模擬授業のための準備 2. 模擬授業 3. 模擬授業 4. 模擬授業 5. 模擬授業 6. 模擬授業 7. 模擬授業 8. 模擬授業 9. 模擬授業 10. 模擬授業 11. 模擬授業 12. 模擬授業 13. まとめ：教育実習のための注意点など 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて授業中に指示する。		出席（無遅刻無欠席が原則）と授業参加態度。模擬授業の教案と準備、模擬授業、反省・感想文、注意点のまとめ、レポート等での総合評価。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	社会科教育法 I	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。</p> <p>社会科教育法 I では、社会科の基本的性格を明らかにするとともに、学習指導要領に基づいて、教科の内容について基本的知識を身につける。また、今日社会科教育に課されている課題について考える。</p> <p>なお、科目の性質上、単なる講義ではなく受講者の発表等を取り入れながら授業を進めていく。</p> <p>* 中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 社会科教員の 1 日 2 社会科成立の背景と意義 3 社会科の教育課程とその変化 (1) 4 社会科の教育課程とその変化 (2) 5 社会科の教育内容 (1) 地理的分野 6 社会科の教育内容 (2) 地理的分野 7 社会科の教育内容 (3) 歴史的分野 8 社会科の教育内容 (4) 歴史的分野 9 社会科の教育内容 (5) 公民的分野 10 社会科の教育内容 (6) 公民的分野 11 社会科の今日的課題 (1) 環境 12 社会科の今日的課題 (2) 国際化 13 社会科の今日的課題 (3) 情報化 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『中学校学習指導要領解説(平成 10 年 12 月)社会編』大阪書籍ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降	社会科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。社会科教育法Ⅱでは、社会科の授業実践のための様々な技能を身につけることを目的とする。</p> <p>社会科で身につけるべき広い意味での学力（知識・技能・態度等）を踏まえて、授業形態別に実践のための知識と技能を具体的に学んでいく。また、情報通信機器等に活用や地域との連携についても考えていく。科目の性質上、授業時に課題等が多く課せられる。また、臨地学習については見学先等との都合により、日時をかえて行なう場合がある。</p> <p>* 中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 社会科の目標と身につけるべき力 2 学習と評価 3 講義式授業の特質 4 教材の収集と利用（1）新聞・雑誌・書籍 5 教材の収集と利用（2）視聴覚教材 6 教材の収集と利用（3）インターネット等 7 生徒主体の学習指導法（1）調べ学習の指導 8 生徒主体の学習指導法（2）ディベートと発表 9 シミュレーション教材の利用 10 臨地学習の意義と計画 11 臨地学習の実践 12 学習指導計画と学習指導案 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『中学校学習指導要領解説（平成10年12月）社会編』大阪書籍ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題（レポート）等も重要な評価材料である。	

03年度以降	社会科教育法Ⅲ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。</p> <p>社会科教育法Ⅲでは、社会科の年間学習指導計画および学習指導案の書き方を学習した後、模擬授業を行い、社会科の教員としての望ましい知識と態度を身につける。</p> <p>* 中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 学校カリキュラムの中の社会科 2 社会科各分野の特性、内容と年間学習指導計画 3 地理的分野の内容構成 4 歴史的分野の内容構成 5 公民的分野の内容構成 6 学習指導案の作成と模擬授業の準備 7 模擬授業（1） 8 模擬授業（2） 9 模擬授業（3） 10 模擬授業（4） 11 模擬授業（5） 12 模擬授業（6） 13 評価問題の検討と学習評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『中学校学習指導要領解説（平成10年12月）社会編』大阪書籍ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題（レポート）等も重要な評価材料である。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	地理・歴史科教育法Ⅰ	担当者	鈴木 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育実習においては、学生であっても生徒の学習活動等に「教員」と同じような責任をもって業務を行わなければならない。そして、その基本は実際の授業をいかに構成しかつ実践するかにあると言える。授業をおろそかにすると生徒の信頼を獲得できない。本講座では、教員として授業を創っていく際に必要なバックグラウンドとしての理論的知識と授業を想定した実践的方法を明らかにし、教員になるための資質を向上させる。</p> <p>本講義では地理・歴史科の中でも必修科目に位置づけられている世界史を中心とした教科教育の方法を取り扱う。世界史教育の立場からアプローチしながら、歴史学と歴史教育の関連、世界史教育の意義、学習指導要領と世界史教育、教員としての資質やその研鑽方法、教材研究のあり方、学習指導案の作成方法、実際の授業づくりの事例などを取り上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史認識と歴史教育 2. 歴史教育と世界史必修化の意義 3. 学習指導要領と教科書 4. どのような教師をめざすか 5. 教材研究のあり方 6. 教材研究の実際 7. 授業をつくる 基礎編① 8. 授業をつくる 基礎編② 9. 授業をつくる 応用編① 10. 授業をつくる 応用編② 11. 授業をつくる 応用編③ 12. 世界史教育の新視点①アジア 13. 世界史教育の新視点②ヨーロッパ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業はパワーポイントを用いたプレゼン方式で行い、随時参考文献等は紹介する。</p>		<p>出席すること、レポート（課題）を提出することを基礎に、レポート内容と合わせて総合的に評価する。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	地理・歴史科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高等学校における地理教育の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、授業実践上基礎的な知識・技能の育成を目指す。</p> <p>本講義では、日本の地理教育史、各国の地理教育の現状を踏まえ、地理で身につけさせるべき見方・考え方・技能について実践的に考察する。</p> <p>*高等学校「地理・歴史科」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 地理教育の目標 2. 日本の地理教育の歩み 3. 諸外国の地理教育 4. 地理的見方・考え方について 5. 地図・地球儀の扱い方（1） 6. 地図・地球儀の扱い方（2） 7. 野外観察・調査の意義と計画 8. 野外観察の実践 9. 系統地理の学習指導 10. 地誌の学習指導 11. 主題的方法の学習指導 12. 学習指導計画と学習指導案 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』実教出版 参考文献は授業中に示される。		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03 年度以降	地理・歴史科教育法Ⅲ	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>歴史教育の「場」がどのように構成されてきたか、振り返ってみてほしい。その内容・教材構成・授業者と学習者、さまざまな要素とそれらの相互関係から成り立つ歴史教育（とりわけ日本史）のあり方を考察し討論することを通じて、教職を志す学生に授業を創造する力を養ってもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史を学ぶこと・教えること① 2. 歴史を学ぶこと・教えること② 3. 歴史研究と歴史教育① 4. 歴史研究と歴史教育② 5. 学習指導要領と教科書叙述① 6. 学習指導要領と教科書叙述② 7. 授業実践事例研究① 8. 授業実践事例研究② 9. 授業実践事例研究③ 10. 授業実践事例研究④ 11. 学習指導案の作成① 12. 学習指導案の作成② 13. まとめ <p>なお、上記の計画は受講者の人数や授業展開により変更されることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用せず，プリントを配布する。参考文献は講義の中で紹介する。</p>		<p>授業への参加状況とレポートなどを総合的に評価する。状況に応じて簡単な小レポートを課すこともある。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	公民科教育法 I	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>社会科・公民科教育の歴史的変遷を通して、公民科教育の意義・目的と課題について考察する。また、「高等学校学習指導要領解説公民編」を活用して、公民科の目標と科目編成、内容とその取り扱い、指導計画の作成と指導上の配慮事項について考察するとともに、具体的に公民科の授業づくりについて検討する。</p> <p>テキストや配布プリント等を活用して講義中心の授業を行うが、公民科教育にかかわる今日的な話題や課題等については、討論会やディベート等を行う機会を持つことも考えている。</p>		<p>1 社会科・公民科教育の変遷</p> <p>①社会科の成立と意義</p> <p>②社会科教育の変遷と公民教育</p> <p>③社会科教育の再編成と公民科の創設</p> <p>2 11年版「学習指導要領公民」の研究</p> <p>④公民科の目標</p> <p>⑤～⑧公民科各科目の内容とその取り扱い</p> <p>⑨公民科各科目の指導計画の作成と指導上の配慮事項</p> <p>⑩公民科各科目にわたる内容の取り扱い</p> <p>3 授業実践演習 I</p> <p>⑪学習指導案・評価問題の作成</p> <p>⑫～⑬公民科各科目の授業づくり</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
文科省『高等学校学習指導要領解説公民編』実教出版		レポート、定期試験、出席状況等で総合的に評価する。	

03 年度以降	公民科教育法 II	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育現場での先進的な授業実践に触れるとともに、公民科各科目の学習指導案に基づいた模擬授業を行い、公民科教育における実践的な指導力を養うことを目指している。</p> <p>公民科教育法 II では、公民科の授業における実践的な力量形成を図ることが目的なので、受講生の意欲的な授業参加、取り組みを期待する。</p> <p>なお、現職教員による示範授業を予定しているので公民科教育にかかわる現状や課題等についても積極的に発言し、自らの公民科の授業づくりに生かしてほしい。</p>		<p>1 公民科の指導法</p> <p>①指導計画の作成と授業展開</p> <p>②学習指導の工夫</p> <p>③評価の工夫</p> <p>2 授業実践事例研究 II</p> <p>④～⑤授業実践事例研究</p> <p>⑥～⑬模擬授業</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
文科省『高等学校学習指導要領解説公民編』実教出版 参考書 魚山・小泉他編『社会科・公民科教育マニュアル』清水書院		レポート、学習指導案、模擬授業、評価問題、出席状況等で総合的に評価する。	

03年度以降	情報科教育法Ⅰ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。</p> <p>情報科教育法Ⅰでは、情報科成立の背景から始めて、学習指導要領にもとづき情報科の内容を検討し、効果的な教育方法を考える。情報機器の利用方法を身につけると同時に学校におけるコンピュータ室の情報教室、学校全体の情報環境の整備・ネットワーク管理の基礎的な技能の育成も図る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 情報科成立の背景 3 普通教科「情報」の目的 4 普通教科「情報」の科目構成と各科目の特色 5 専門教科「情報」の目的 6 専門教科「情報」の科目構成と内容の概略 7 情報科教材研究（1）普通教科「情報」 8 情報科教材研究（2）普通教科「情報」 9 情報科教材研究（3）普通教科「情報」 10 情報科教材研究（4）普通教科「情報」 11 情報科教材研究（5）専門教科「情報」 12 情報科教材研究（6）専門教科「情報」 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03年度以降	情報科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。</p> <p>情報科教育法Ⅱでは、年間学習指導計画・学習指導案の作成、先進校授業参観、模擬授業を予定している。</p> <p>なお、先進校授業参観については、相手校の都合等により日時をかえて行なう場合がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 普通教科「情報」の特性と年間学習指導計画 2 専門教科「情報」の各科目の配置と年間学習指導計画 3 「情報」学習指導の実際（授業見学） 4 「情報」学習指導の実際（授業見学） 5 「情報」学習指導の実際（授業見学） 6 学習指導案の作成 7 学習指導案の作成 8 模擬授業（1） 9 模擬授業（2） 10 模擬授業（3） 11 模擬授業（4） 12 模擬授業（5） 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03 年度以降	教科教育法特論 I	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、中学校における各教科の指導法に関する学習をさらに発展させるために、教科教育法の授業との関連を図りながら、中学校の教科教育に関する理解を広げ、教育課程及び各教科の指導法に関する学習を深めることを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、中学校教育の目的・目標、中学校の教育課程における教科教育の意義と役割、教科教育と教科外教育との関係、学力と評価、教科教育の今日的課題等を明らかにすることによって、教科教育に関する理解を深める。 そのうえで、今日の教科教育の重要な課題である、各教科の関連づけを図った教科横断的な学習指導についての理解を深めるために、いくつかのグループに分かれ、総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案を作成する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 確かな学力とは何か 2 中学校教育の教育課程 3 教科と総合的な学習 4 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(1) 5 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(2) 6 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(3) 7 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(4) 8 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(5) 9 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(6) 10 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(7) 11 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(8) 12 総合的な学習との関連を図った教科学習の学習指導案作成(9) 13 作成した学習指導案の発表・検討 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席 (7 割以上)、グループ学習の活動内容、レポートによる総合評価	

03 年度以降	教科教育法特論 I	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教科教育法特論 II	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このコースは外国語科目を将来教える学生が、担当教科に関わる学習指導要領と教科書の内容を十分理解し、それを児童・生徒に教授できるだけの知識を有することを目的とする。特に第二言語習得論をふまえた上でどのように授業を効果的に行うかを考える。</p> <p>Goals:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● To survey different approaches, methods, and techniques in L2/FL teaching ● To examine your own beliefs about teaching and learning ● To explore how you may put your knowledge and beliefs into practice ● To train your teaching skills in the classroom 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Course introduction 2 音声指導 : lecture 3 音声指導 : workshop 4 語彙指導 : lecture 5 語彙指導 : workshop 6 文法指導 : lecture 7 文法指導 : workshop 8 micro teaching 1 9 micro teaching 2 10 micro teaching 3 11 micro teaching 4 12 micro teaching 5 13 wrap-up 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『新学習指導要領に基づく英語科教育法の構築と展開』 (編著：青木昭六、現代教育社)		Micro-teaching, Self-evaluation in English 750-word essay, Reading assignments	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教科教育法特論Ⅱ	担当者	J.J. DUGGAN
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, we will be working with a unique approach to the teaching of the four skills (reading, writing, listening, & oral communication). Unique in that, in addition to learning practical ideas and techniques, we try to stretch our view of just what each of these skills involve, and how they can be taught and applied to both traditional and modern education.</p> <p>Each of these skills will be studied in a three-week cycle. The first lesson will be devoted to learning practical ideas and techniques in teaching the skill being taught. The second lesson will involve looking at each skill from its smallest teachable component (but important nonetheless) to its largest. In the third week we will study the practical applications and connections of each skill to one modern educational topic.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Course Introduction Week 2: Teaching Reading Week 3: Reading—Phonics to Novels Week 4: Reading & Educational Technology Week 5: Teaching Writing Week 6: Writing—Penmanship to Essays Week 7: Writing & Motivation Week 8: Teaching Listening Week 9: Listening—Sounds to Shows Week 10: Listening & Culture Week 11: Teaching Oral Communication Week 12: OC—Phonemes to Discourse Week 13: Oral Communication & Presentation Skills</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Readings from newspapers/magazines, academic texts and research articles, miscellaneous handouts.		Grades are based on in-class participation, a number of assignments, and a final assessment.	

03 年度以降	道徳教育の研究	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 本講義は、①道徳に関する歴史、②昨今の教育改革における道徳の位置づけと大きくわけて2つの「理論編」の講義と、指導案を作成し、模擬授業を行う、という「実践編」の2つの柱で構成される。これらを通じて、道徳教育に関する実践力を身につけることを目的としている。</p> <p>●講義概要 上記のように前半における理論編では講義中心で行う。後半の指導案作成・模擬授業においてはグループをつくり、実際に自身で教材を探し、「道徳の時間」を構成する。 受講人数によるが、いくつかのグループは実際に模擬授業を行う予定である。</p>		<p>1 講義に関するガイダンス 2 ~高校における道徳教育必修化をどう考えるか 3 道徳教育の歴史① 4 道徳教育の歴史② 5 道徳教育の歴史③ 6 小テスト&指導案をつくる 7 指導案の検討① 8 指導案の検討② 9~13 模擬授業</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		小テスト、レポート、指導案作成などを総合的に評価します。	

03 年度以降	道徳教育の研究	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	道徳教育の研究	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、児童生徒の社会性やモラルの低下など、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、児童・生徒の人間形成においてきわめて重要な役割を果たす道徳教育の目的、内容、方法及びその今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 道徳教育は、人間形成の基礎にかかわるものであり、人間が社会の中で人間として生きていくために不可欠の内容を有している。本講では、道徳教育の意義と目的、学校教育における位置と役割についての基本的理解を得たうえで、道徳について考えるうえでの基本的な問いを「教育において「いのち」のもつ意味は何か」と捉え、その観点から、今日の道徳教育の現状を分析し、その特徴と問題点を明らかにし、一人ひとりの子どもの「生きる力」の育成に資する道徳教育とは何かについての検討を加える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の道徳教育体験を振り返る 2 道徳とは何か(1) 3 道徳とは何か(2) 4 学校教育における道徳教育の位置と役割(1) 5 学校教育における道徳教育の位置と役割(2) 6 教育における「いのち」の意味 7 「いのち」を考える授業(1) 8 「いのち」を考える授業(2) 9 「いのち」を考える授業(3) 10 学習指導案の作成(1) 11 学習指導案の作成(2) 12 模擬授業(1) 13 模擬授業(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領 解説 道徳編』『心のノート 中学校』 その他は、講義の中で紹介する。		出席（7割以上）、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	特別活動	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校教育における「特別活動」の意義や基本的性格、歴史的変遷等について考察するとともに、「高等学校学習指導要領解説特別活動編」を中心に、「特別活動」の目標や内容、指導計画の作成と内容の取り扱い等について具体的に検討する。また、「特別活動」の内容に関する具体的な進め方や今日的な課題への対応等について検討し「特別活動」に関する実践的な指導力を養うことを目的とする。</p> <p>テキスト、配布プリント等を用いて講義中心の授業を行うが、実践演習の場面では研究班を編成してディベートやディスカッション、ロールプレイングなどを活用して、実践的な指導力を養う機会を持つ予定である。</p>		<p>1 特別活動の意義</p> <p>①学校教育と特別活動</p> <p>②特別活動の歴史的変遷</p> <p>2 特別活動の目標と内容</p> <p>③特別活動の目標と基本的性格</p> <p>④特別活動の指導計画・指導案の作成</p> <p>⑤特別活動の評価</p> <p>⑥ホームルーム活動(学活)の特質と活動内容</p> <p>⑦生徒会活動の特質と活動内容</p> <p>⑧学校行事の特質と活動内容</p> <p>3 特別活動の実践演習</p> <p>⑨ホームルーム活動(学活)の指導と展開</p> <p>⑩生徒会活動の指導と展開</p> <p>⑪～⑫学校行事の指導と展開</p> <p>⑬部活動の指導と展開</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文科省『高等学校学習指導要領解説特別活動編』東山書房参考文献 山口満編『特別活動と人間形成』学文社</p>		<p>学習指導案、レポート、定期試験、出席状況等で総合的に評価する。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	特別活動	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、児童生徒の人間関係の希薄化、集団離れ、社会性の低下など、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、教科、道徳とともに教育課程の一領域を構成する特別活動の目的、内容、方法及びその今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>特別活動は、戦後教育の初期から、民主主義に基づく学校教育の重要な教育内容として計画され、実践されてきた。本講では、学校教育の大幅な改革が求められている今日において、子どもたちの自主的、実践的、集団的な活動である特別活動がますます重要な意味をもってくるとの認識に基づいて、それが児童期や青年期の人間形成においてどのような役割をもっているのか、その役割を十分に果たすためには児童・生徒の諸活動をどのように組織し、指導することが望ましいのか等の問題について検討を加える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の特別活動体験を振り返る 2 現代の人間形成と特別活動(1) 3 現代の人間形成と特別活動(2) 4 教育課程における特別活動の位置と役割(1) 5 教育課程における特別活動の位置と役割(2) 6 児童生徒の社会性と特別活動の実践課題(1) 7 児童生徒の社会性と特別活動の実践課題(2) 8 特別活動の実践事例の検討(1) 学級活動 9 特別活動の実践事例の検討(2) 生徒会活動 10 特別活動の実践事例の検討(3) 学校行事 11 次期学習指導要領における特別活動の実践課題 12 話し合い活動の実践(1) 13 話し合い活動の実践(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山口満編著『新版特別活動と人間形成』学文社、文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 特別活動編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』その他は、講義の中で紹介する。		出席（7割以上）、レポート、試験による総合評価	

03年度以降	教育方法学	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学習目標：教育職の重要性を再検討し、自身の教育コミュニケーション能力を確認する。</p> <p>概要：コミュニケーション、教育・学習、教師の役割などを関連させながら、各自の教育方法のイメージを描けるよう支援する。併せて、グループによる討議やレポートを作成する。</p> <p>※詳細は開講時に明示する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ①プロローグ ②コミュニケーションと教育・学習 ③教師の役割 ④授業を問いかける ⑤視聴覚メディア ⑥ビデオ教材による教育現場 ⑦校外専門家による授業 ⑧グループ討論 ⑨授業設計 ⑩測定と評価 ⑪教育方法のイメージ ⑫教師の適性 ⑬エピローグ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐賀啓男編著（2008）『視聴覚メディアと教育』樹村房：第1章を（町田分担執筆）コピーして配付する。		出席、個人レポート、グループレポート、定期試験の総合	

03年度以降	教育方法学	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育方法学	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、今日の学校教育、とりわけ授業の構成と展開をめぐる問題状況を踏まえながら、教育方法の研究、実践に関する今日的な課題について考察することを目的とする。</p> <p>講義概要 毎日の授業をどのように工夫したらよいか、子どもたちの個性を最大限に生かせるような指導とは何か等の問いに代表されるように、授業の内容とその方法に関する諸問題は、学校教育における最も重要な課題の一つである。本講では、教育方法学のうち、特に授業研究の問題に焦点をあて、授業研究を行ううえでの基本的な考え方はどのようなものであるのか、授業を成り立たせている構成要素は何か、授業を展開する具体的な方法とは何か等の問題について、各種資料やVTRによる実際の授業記録などを用いながら多面的に検討を加え、授業研究に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の授業体験を振り返る 2 授業とは何か 3 教育実習生の授業 4 ベテラン教師の授業 5 教材研究とは何か(1) 6 教材研究とは何か(2) 7 教材研究の事例の検討(1) 8 教材研究の事例の検討(2) 9 教材研究の事例の検討(3) 10 教材研究とメディア 11 林竹二の授業論から見た今日の授業研究の課題(1) 12 林竹二の授業論から見た今日の授業研究の課題(2) 13 林竹二の授業論から見た今日の授業研究の課題(3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席 (7割以上)、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	生徒指導法	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育機能の一つである生徒指導、教育相談、進路指導などに関する基本的原理について学ぶ。また、生徒指導、進路指導上の今日的諸課題についての検討を通して、課題解決に向けての具体的な方策を考えるとともに、実践への心構えや指導のあり方等について学習することにする。</p> <p>配布プリント等を用いて講義中心の授業を行うが、講義内容によってはディベートやディスカッション、事例研究プレゼンテーションなど、さまざまな学習形態で実践的な指導力を養うための工夫をする予定である。</p>		<p>① 生徒指導の意義と機能、</p> <p>② 青年期と生徒理解</p> <p>③ ～④生徒指導の方法原理と生徒指導の進め方</p> <p>⑤ 生徒指導計画と組織・役割</p> <p>⑥ 生徒指導と教育課程</p> <p>⑦ 懲戒と体罰禁止</p> <p>⑧ 健康・安全に関する指導</p> <p>⑨ 在り方生き方教育と進路指導</p> <p>⑩～⑬生徒指導に関する事例研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校則問題 ・不登校といじめ ・飲酒・喫煙問題と校内暴力 ・性非行と薬物乱用問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書 文科省『生徒指導の手引き』、『学校における教育相談の考え方・進め方』、『個性を生かす進路指導を目指して』		事例研究、プレゼンテーション、定期試験、出席状況等で総合的に評価する。	

03年度以降	生徒指導法	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	生徒指導法	担当者	林 尚示
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>生徒指導法は、次の2つの力を学生に修得させることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での生徒指導上の課題について分析及び検討ができる力。 ・学校で生徒指導を担当するための方法及び技術。 <p>講義概要</p> <p>テキスト『新編生徒指導読本』を使用し、講義形式で、生徒指導の理論と方法について説明をする。さらに、生徒指導の計画案を試行的に作成することを内容に含む個別学習も行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の概要説明 2 生徒指導の意義と課題 3 生徒指導と教育課程との関連 4 生徒指導の組織と計画 5 児童・生徒理解 1 6 児童・生徒理解 2 7 集団指導 1 8 集団指導 2 9 個別指導 1 10 個別指導 2 11 問題行動の理解と指導 12 進路指導 13 授業についての質疑応答とレポートの提出 	
テキスト、参考文献		評価方法	
有村久春編『新編生徒指導読本』教育開発研究所、2007年		出席回数、授業時の学習態度、レポートによる総合評価。	

03年度以降	学校カウンセリング	担当者	鈴木 乙史
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校場面で必要とされるガイダンスとカウンセリングの知識・技術を講義する。また学校という場の特徴を知り、そこで教育相談全般および教職員相互の連携について、特に多く見られる諸問題、例えば、不登校・いじめ・集団不適応的行動などについて、個々の事例を分析・検討しながら、その効果的対処法を考える。カウンセリングの技術に関しては、適宜実習を行う。</p> <p>必要に応じて、グループディスカッションやテープやビデオを用いた実習を行ない、単なる理論についての知識だけでなく、教育相談の技法やカウンセリングの応答についての技法を習得する。</p>		<p>第1回：学校カウンセリングとは 第2回：学校という場の特徴 第3回：学校における教育相談 第4回：教職員相互の連携について 第5回：カウンセリングとガイダンスの方法 第6回：カウンセリングの基礎と応用（1） 第7回：カウンセリングの基礎と応用（2） 第8回：不登校の事例検討（1） 第9回：不登校の事例検討（2） 第10回：いじめの事例検討（1） 第11回：いじめの事例検討（2） 第12回：その他の問題 第13回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わない。その都度、必要なプリントを配布する。		授業中に与える小課題や実習レポートなどから評価する。	

03年度以降	学校カウンセリング	担当者	鈴木 乙史
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	学校カウンセリング	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>不登校、無気力、いじめ、自殺、非行、暴力行為など、教育現場には生徒の心にかかわる問題が山積している。また、学級崩壊、教師の問題行動など、教師の資質や心のあり方が問われることも多い。</p> <p>この科目は、学校カウンセリングの基礎的知識と技法を身につけることにより、教科教育以外の教師の役割理解を深め、資質向上を図ることを目標とする。</p> <p>授業回数が限られているので、カウンセリングの理論学習は時間外の自習に期待し、教室においては、できるだけカウンセリングの技法や実際についての体験学習を取り入れて、カウンセリングを実感できるよう工夫したい。</p> <p>講義のほか、ロールプレーやVTR・テープ視聴等を併用する。一方的な講義でなく対話(かかわりあい)のある授業としたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校・生徒の現状とカウンセリングの必要性 2. カウンセリングとは 3. カウンセラーの役割、教師の役割 4. 生徒理解と援助のポイント(1) 5. 生徒理解と援助のポイント(2) 6. カウンセリングの実際(1) 7. カウンセリングの実際(2) 8. カウンセリングの理論と技法(1) 9. カウンセリングの理論と技法(2) 10. 学校カウンセリングと心理テスト 11. キャリアカウンセリングの基礎 12. 保護者への援助：コンサルテーション 13. 校内組織、校外機関の活用と連携／まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。プリントによる。</p> <p>参考文献は必要に応じて示す。</p>		<p>出席状況、授業中に課す提出物(「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など)、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	総合演習	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人類のかかえている諸課題について、多面的な視点から分析・検討する能力を養うとともに、これらの課題について個別教科の枠を超えて総合的な学習の時間で扱う方法を考える。</p> <p>本授業では、身近な問題を事例としながら考えていく。講義というよりは受講者が、グループ活動等で調べ、さまざまな形で発表するという形式で進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 学校教育における総合的学習の意義 2 獨協大学から世界の課題を考える（環境） 3 グループワーク（フィールドワーク） 4 グループワーク 5 グループワーク 6 グループワーク 7 発表 8 獨協大学から世界の課題を考える（社会） 9 グループワーク（体験学習） 10 グループワーク 11 グループワーク 12 グループワーク 13 発表 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に個別に示される。		出席・プレゼンテーション・レポート等を総合的に判断する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	総合演習	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>急速なグローバル化の進展にともない、学校現場も「国際」と無関係ではいられなくなってきている。海外を扱うだけではない、新の国際化とは何かについて考えるとともに、総合的な学習の時間で扱う方法を考え、模擬授業を行うことが目的である。</p> <p>授業計画をみるとわかるように、講義形式ではなく、グループ作業を中心に進める形である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 国際理解とはなにか 3. ～6 グループワーク 7. ～8 発表 9. グループワーク 10.～13 模擬授業 	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	総合演習	担当者	渋谷 英章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 現代的な課題の中から、「国際理解」をとりあげ、資料収集、討議、発表などを通じて、「総合的な学習の時間」を自ら体験することを通して、その意義を理解するとともに、情報収集・情報検索やグループ学習の方法、プレゼンテーションの技術などの総合学習の指導方法を修得する。</p> <p>講義概要 ①「総合的な学習の時間」の位置づけと「国際理解」の基本的課題について提示する。 ②「世界の子どもたちと日本の子どもたちの比較」を課題とし、トピックないしは対象地域に応じてグループを編成する。 ③各自が外国の子どもたちの現状について情報収集を行い、その内容をグループのなかで発表し、討議を行う。 ④日本の子どもたちの現状を外国の子どもたちと比較しながら、各自が情報収集を行い、グループ内で発表・討議を行う。 ⑤両者の比較検討を行い、グループごとにその検討の結果を発表する。 ⑥全体討議を行う。 ⑦このほか、参加型のアクティビティを体験する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 各自の興味関心の発表とグループ編成 3 グループによる計画の策定 4 グループ・ワーク 5 グループ・ワーク 6 全体での経過報告 7 参加型学習アクティビティの体験 8 グループ・ワーク 9 グループ・ワーク 10 グループ・ワーク／ディスカッション 11 グループ発表 12 グループ発表 13 全体討議 <p>・グループ・ワークでは、グループでの活動記録と、各自が発表に用意した当日の資料を毎回提出する</p> <p>* 春か秋の野外体験学習に参加すること</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		グループ発表と自己評価等の個別最終レポート、ならびに、出席によって評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	総合演習	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者はグループで身近なテーマを取りあげ、問題の設定、分析、考察をおこなう。さらに、それらの調査結果をまとめてグループで発表する。また、グループ発表に基づいて相互に議論・評価をおこなう。これらの授業を通して、さまざまな分野の今日的課題に興味を持ち、視野を広げ、多角的な視点でものごとを捉える力を習得してほしい。受講者には、授業に主体的に取り組み、自ら学び考える姿勢が求められる。</p>		<p>以下の計画で授業を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（グループ分けの実施） 2. 総合演習の目的とは？ 3. 研究テーマの設定 4. グループワーク：資料の収集と整理 5. グループワーク：資料の収集と整理 6. グループワーク：資料の分析 7. グループワーク：資料の分析 8. グループワーク：資料のまとめ 9. グループワーク：資料のまとめ 10. 成果発表 11. 成果発表 12. 相互評価とディスカッション 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しない。必要な資料は配付する。参考文献は講義において紹介する。</p>		<p>出席，レポート発表，授業への参加態度により総合的に評価する。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	総合演習	担当者	林 尚示
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>総合演習は、次の2つの力を学生に修得させることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人類に共通する課題や我が国社会全体にかかわる課題を分析及び検討できる力。 ・ 生徒を指導するための方法及び技術。 <p>講義概要</p> <p>生徒指導および教育課程を例にとり、演習形式で、学習指導案や教材を試行的に作成することを内容に含むグループ学習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 総合演習の意義，ねらい，グループ分け 2 各グループのテーマ設定 3 各グループでのテーマ研究 4 生徒指導グループ1の構想発表 5 教育課程グループ1の構想発表 6 生徒指導グループ2の構想発表 7 教育課程グループ2の構想発表 8 各グループでのテーマ研究 9 生徒指導グループ1の最終発表 10 教育課程グループ1の最終発表 11 生徒指導グループ2の最終発表 12 教育課程グループ2の最終発表 13 レポート集の作成 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>有村久春編『新編生徒指導読本』教育開発研究所，2007年。</p> <p>樋口直宏，林尚示，牛尾直行編著『実践に活かす教育課程論・教育方法論』，学事出版，2002年。</p>		出席回数，授業時の学習態度，レポートによる総合評価。	

03年度以降	総合演習	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、教師を志望する学生が、今日の小・中・高等学校の教育において求められている「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」を身に付けるために、現代社会に存在する諸問題に関する課題解決的な学習についての実践演習を行うことを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>本講では、中学校・高等学校における課題解決的な学習を想定し、生徒が日々の生活や学習で直面する現代的な課題（たとえば、環境、食と健康、国際理解、多文化共生、情報とコミュニケーション等）に関するグループ研究、グループ発表、相互評価を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 総合演習の意義とねらい、グループ分け 2 各グループにおける学習テーマの設定(1) 3 各グループにおける学習テーマの設定(2) 4 グループ研究(1) 5 グループ研究(2) 6 グループ研究(3) 7 グループ研究(4) 8 グループ研究(5) 9 グループ研究(6) 10 グループ研究(7) 11 研究成果の発表(1) 12 研究成果の発表(2) 13 グループ研究の評価と反省 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』</p> <p>その他は、講義の中で紹介する。</p>		<p>出席（7割以上）、レポート、試験による総合評価</p> <p>*春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること</p>	

03年度以降	総合演習	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	総合演習	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本クラスは、教員の資質として必要なクラスマネージメント、人間関係形成のためのノウハウを学ぶことを目的とします。</p> <p>クラスでは、グループワークを中心にレクリエーションスポーツ種目を利用した行事の企画、運営、実施を学生が行います。各グループのイベントを実施し、他グループによる評価をうけ、よりよい実施案を作成します。</p> <p>イベント企画例</p> <ul style="list-style-type: none"> ペタンク大会 キャンプファイヤー キャンドルサービス 小運動会 ゲーム大会 ドッジボール大会等 		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 イベントの企画のしかた 3 イベント計画とチーム編成 4 イベントの企画作成 5 イベントのプレゼンテーション第1回 6 イベントのプレゼンテーション第2回 7 各グループによるイベントの実施第1回 8 各グループによるイベントの実施第2回 9 各グループによるイベントの実施第3回 10 各グループによるイベントの実施第4回 11 各グループによるイベントの実施第5回 12 ふりかえりと相互評価 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じてプリントを配布します。		出席状況、取り組み姿勢、レポート	

03 年度以降	教育実習論 I (事前指導)	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を行うことにより、教育実習に向けての準備を進めることを目的とする。</p> <p>講義概要 教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習の事前指導として、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする。また、実習生としての心構え、実習期間中の留意点等についてもふれ、教育実習に関する理解を深めていく。教育実習終了後には、自らの実習体験を振り返り、今後の学習課題を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習とは何か 2 教育実習の概要 3 授業を見る(1) 4 授業を見る(2) 5 授業を見る(3) 6 授業を見る(4) 7 授業のスキル 8 授業の評価 9 学習指導案の作成(1) 10 学習指導案の作成(2) 11 模擬授業(1) 12 模擬授業(2) 13 教育実習期間中の諸注意 	
テキスト、参考文献		評価方法	
獨協大学『教育実習の指針』文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。		出席 (8 割以上)、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論Ⅰ（事前指導）	担当者	小川 輝之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教職課程教育のまとめであり、最大の関門でもある「教育実習」について、その意義と目的、内容と実際について学ぶ。また、学校教育が抱えている今日的な課題や教育改革の動向などについて検討し、それを踏まえた指導のあり方を考察するなど、教育実習の事前指導としての役割が十分果たせるように工夫したい。</p> <p>教育課題検討会や学習指導案作成、模擬授業など受講者中心の授業になるので積極的・主体的な授業参加を期待したい。</p> <p>なお、授業の後半で現職の教員を迎えて実習生としての心構えや事前準備等について何う予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の意義 <ul style="list-style-type: none"> ①教育実習の意義と目標 ②教育実習の形態 2 教育実習の内容 <ul style="list-style-type: none"> ③学校運営組織と校務分掌 ④生徒理解と生徒指導 ⑤教育課程と学習指導要領 ⑥学習指導と教材研究 ⑦道徳、特別活動、総合的な学習の時間の指導 3 教育実習の実際 <ul style="list-style-type: none"> ⑧教育実習の日々 ⑨学習指導案の作成 ⑩学習指導の実際 ⑪教師としての勤務と実習生 4 現代の教育課題と教師の役割 <ul style="list-style-type: none"> ⑫学校の課題と教師の役割 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『教育実習の指針』 獨協大学		レポート、学習指導案、出席状況等で総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論 I (事前指導)	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第一に、教育実習の意義（教職課程上の位置付け等）を講義し、教育実習の実際を、実習を終えた四年生から学びます。これを通じて、実習をむかえる心構えと準備を確かなものにします。</p> <p>第二に、実習校種別にグループを作って、四年生の援助の下に、模擬授業を行います。これによって、教案の書き方、授業準備の仕方、授業の進め方や注意点などを、きめ細かく学びます。</p>		<p>1～3回 教育実習の意義および実習の実際について</p> <p>4～6回 校種別実習計画づくり</p> <p>7～14回 校種別模擬授業実施</p> <p>15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』。</p> <p>その他は、講義の中で紹介します。</p>		<p>出席と、作成した教案等を参考にします。試験は行いません。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論 I (事前指導)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1～3においては、教育実習の意義（教職課程上の位置付け等）を講義し、教育実習の実際を、実習を終えた四年生から学ぶ。これを通じて、実習をむかえる心構えと準備を確かなものにする。</p> <p>4～13では、教科・実習校種別にグループを作って、四年生の援助の下に、模擬授業を行う。これによって、教案の書き方、授業準備の仕方、授業の進め方や注意点などを、きめ細かく学ぶ。</p>		<p>1～3 教育実習の意義および実習の実際について</p> <p>4～6 校種別実習計画づくり</p> <p>7～13 校種別模擬授業実施</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
獨協大学『教育実習の指針』。		出席と、作成した教案等を評価する。試験は行わない。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論 I (事前指導)	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を行うことにより、教育実習に向けての準備を進めることを目的とする。</p> <p>講義概要</p> <p>教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習の事前指導として、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする。また、実習生としての心構え、実習期間中の留意点等についてもふれ、教育実習に関する理解を深めていく。教育実習終了後には、自らの実習体験を振り返り、今後の学習課題を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習とは何か 2 教育実習の概要 3 授業を見る(1) 4 授業を見る(2) 5 授業を見る(3) 6 授業を見る(4) 7 授業のスキル 8 授業の評価 9 学習指導案の作成(1) 10 学習指導案の作成(2) 11 模擬授業(1) 12 模擬授業(2) 13 教育実習期間中の諸注意 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』</p> <p>その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席(8割以上)、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、教育実習の事後指導として、教育実習の反省・フォローアップを行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図ることによって、学校教育に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の体験の発表 2 教育実習レポートの作成 3 発問 4 板書 5 各種資料及び機器の活用 6 生徒とのコミュニケーション 7 授業評価 8 学習指導案の作成(1) 9 学習指導案の作成(2) 10 模擬授業(1) 11 模擬授業(2) 12 模擬授業(3) 13 近年の教育改革の現状と課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席（8割以上）、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第一に、実習校や実習の交流を行い、学校による違いや反省点を明確にします。</p> <p>第二に、これから実習を迎える三年生を対象として、実習の実際を伝えていきます。</p> <p>第三に、三年生が行う校種別の模擬授業を指導し、教案の作成の仕方、授業準備の仕方等を教えます。また、実習に関する最新の注意を与えます。このことを通じて、自らの実習を詳しく振り返るとともに、指導の仕方や教え方そのものを学ぶことができます。</p>		<p>1～3回 教育実習の意義および実習の実際について</p> <p>4～6回 校種別実習計画づくり</p> <p>7～14回 校種別模擬授業実施</p> <p>15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習日誌』。</p> <p>その他は、講義の中で紹介します。</p>		<p>出席と、指導して作成した教案等を参考にします。</p> <p>試験は行いません。</p>	

03 年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 この講義は、すでに教育実習を終えた学生を対象に、教育実習の振り返りをするを目的としている。</p> <p>●講義内容 おもに1～3ではグループになり、①授業編、②生活指導編、③その他で教育実習を振り返る。他校に行った学生の指導案や日誌を見ることで自身との共通点や差異を見つけ、ディスカッションする。 4～6ではそれらのディスカッションを踏まえ、指導案を作成し、互いの授業の工夫などについても再度ディスカッションを行う。 7～13にかけては、そこで作成した指導案について、もぎ授業を行う。</p>		<p>1～3 教育実習の意義および実習の実際について 4～6 校種別実習計画づくり 7～13 校種別模擬授業実施とまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』。 その他は、講義の中で紹介します。</p>		<p>出席と、作成した教案等を参考にします。試験は行いません。</p>	

03 年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講は、教育実習の事後指導として、教育実習の反省・フォローアップを行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>講義概要 本講では、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図ることによって、学校教育に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の体験の発表 2 教育実習レポートの作成 3 発問 4 板書 5 各種資料及び機器の活用 6 生徒とのコミュニケーション 7 授業評価 8 学習指導案の作成(1) 9 学習指導案の作成(2) 10 模擬授業(1) 11 模擬授業(2) 12 模擬授業(3) 13 近年の教育改革の現状と課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>獨協大学『教育実習の指針』文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』 その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席（8割以上）、レポート、試験による総合評価	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	介護ボランティアの理論と実践	担当者	新井 利民
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代社会において人が人を支え、援助する意味と役割に関して、自分で考え、行動する力を養うことを目的とします。高齢者・障害者・児童・ホームレスなど何らかの援助が必要な人々のニーズと、ケアの役割、またその援助におけるボランティア活動の役割について、受講生の皆さんと一緒に考えたいと思います。</p> <p>クラスの規模にもよりますが、目的から鑑み一方的な講義のみではあまり意味がないので、1コマのうち必ず一回は、グループワーク又は個人ワークをしたいと考えています。内容は、テーマに関する意見交換やゲーム、ちょっとしたロールプレイなどです。主体的に講義に参加しようとする方の受講を望みます。恥ずかしがらずに、トレーニングの一つだと思って、チャレンジしてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 「ケア」の概念を紐解く 2. 価値観を尊重する 3～4. ケアのフィールド①：高齢福祉 5. 相手を多面的に理解する 6～7. ケアのフィールド②：障害福祉 8. 信頼関係を結ぶコミュニケーション 9. ケアのフィールド③：児童福祉 10. ケアのフィールド④：地域/災害救援 11. ケアのフィールド⑤ホームレス支援 12. ボランティア・市民活動を考える 13. 「体験」から学ぶ方法 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>加藤浩美『たったひとつのたからもの』文芸春秋,2003 ミルトンメイヤロフ著『ケアの本質』ゆみる出版,1998 金子郁容『ボランティア もうひとつの情報社会』岩波新書,1992 中西正司,上野千鶴子『当事者主権』岩波新書,2003</p>		平常授業の課題及び期末レポートにより評価	

03年度以降	介護ボランティアの理論と実践	担当者	小川 孔美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代社会において「介護」は、今まさに必要とする個人にとってだけでなく、現在健康である個人にとっても、その長い人生において誰もが「介護」を必要とし、「介護」について悩み考え、「介護」する立場になる可能性は高く、決して他人事ではない事象といえよう。</p> <p>しかしながら、人間としての尊厳を支える、豊かな人間観、多様な価値観を持った、確かな人間理解の視点と意識に基づいた「介護」が誰でもできるかといえば、決してそうではない。それは、毎日のように報道される事件からも容易に想像できるであろう。</p> <p>この講義では、「介護」「ボランティア」場面で直面する頻度の高い高齢者、障害者等の疾病、障害等に関する理解を深めながら、「介護」を必要とする個人のニーズについて検討する。</p> <p>さらに、個人の生活意欲をも引き出し、自立支援、介護予防の視点をもった、尊厳を支える「介護」の展開を可能にする人間理解、基本的知識と視点を育むことを目標とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 「介護」の基本的概念と定義 2. 「生活」と「ニーズ」 3. 高齢者福祉制度と施策 4. 障害者福祉制度と施策 5. その他の社会保障制度・施策の理解 6. 高齢者に多い疾病—その症状の理解と加齢に伴う変化 7. 疾病、障害と生活支援 8. 移動介護における基本—車椅子、歩行器、杖 9. 体位変換と褥瘡 10. 食事介護における基本と胃瘻 11. 衣服の着脱と入浴介助 12. 認知症の理解と症状のケア—コミュニケーション 13. まとめ—「介護」を支える社会とは 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献</p> <p>守本 友美他著『ボランティアのすすめ—基礎から実践まで』 ミネルヴァ書房 (2005)</p> <p>小竹雅子著『介護情報Q&A』岩波ブックレット (2007)</p> <p>太田仁史監修『新しい介護』講談社</p>		出席・期末レポート(70%)、平常授業における課題レポート(30%)を総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	日本史概説 I	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年の日本史研究では、日本列島に展開した歴史像がより多角的、多面的な捉えなおされており、今日では一定の成果を確認することができる。こうした研究状況をふまえ、前近代を素材に文字史料の読み直しとともに非文字史料に着目し、それぞれの時代像や歴史認識を豊かにするために重要と思われるテーマを講義していきたい。</p> <p>極めて限られた時間数の中での講義のため、歴史経過にそって通史的に講義することは必要最低限にとどめるとともに、取り上げるテーマには時代的に多少の多寡があることも予め了承しておいていただきたい。</p> <p>高校までの歴史学習で習得した歴史の流れをふまえて授業にのぞむことが授業を退屈にさせないカギとなるだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ的に一日本とは？歴史とは？— 2. 日本における歴史研究の歴史—史学史①— 3. 日本における歴史研究の歴史—史学史②— 4. 古代の社会—弥生のムラ①— 5. 古代の社会—弥生のムラ② 6. 古代の社会—ワカタケル大王の時代— 7. 中世の社会—絵図にみる百姓世界①— 8. 中世の社会—絵図にみる百姓世界②— 9. 中世の社会—洛中洛外図を読み解く①— 10. 中世の社会—洛中洛外図を読み解く②— 11. 近世の社会—江戸図屏風を読み解く①— 12. 近世の社会—江戸図屏風を読み解く②— 13. まとめ <p>なお、上記の計画は授業展開により変更されることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献は講義の中で随時紹介する。</p>		<p>試験とともに授業状況に応じて課す小レポートなどをもとに、総合的に評価する。</p>	

03年度以降	日本史概説 II	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本史概説 I に続くこの講義では、近現代を素材としていく。その際、対外関係を基軸に考察していくが、その前提となる前近代の対外関係についても扱うことになる。この講義を通じて、現代の国際化社会における日本のあり方、さらには歴史教育のあり方などをめぐって受講生とともに考えていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 古代・中世の自国認識と他国認識① 2. 古代・中世の自国認識と他国認識② 3. 古代・中世の自国認識と他国認識③ 4. 日本型華夷秩序の形成・展開① 5. 日本型華夷秩序の形成・展開② 6. 「鎖国」論をめぐって① 7. 「鎖国」論をめぐって② 8. 近代の対外認識① —「近代」と「他者」へのまなざし— 9. 近代の対外認識② —「近代」と「他者」へのまなざし— 10. 博覧会・博物館と国民国家① 11. 博覧会・博物館と国民国家② 12. 博覧会・博物館と国民国家③ 13. まとめ (エピローグ的に) —歴史学と歴史教育— <p>なお、上記の計画は授業展開により変更されることもある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>特定のテキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献は講義の中で随時紹介する。</p>		<p>試験とともに授業状況に応じて課す小レポートなどをもとに、総合的に評価する。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	外国史概説 I	担当者	兼田 信一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、最初に最近の中国事情と中国の地理的・風土的特徴を概観した後、新石器時代から唐帝国滅亡までの歴史的展開を、おもに農村社会の変化を軸に概観する。</p> <p>農村社会に注目するのは、最近の中国の急激な経済発展は深刻な格差を生ぜしめ、従来の中国社会に劇的な変質をもたらしているが、最も影響が大きいのが農村社会・農民の社会であり、今後の中国の発展にとって農村・農業問題はその中国の存亡に関わる重要な問題であるが、その本質的特質は未だ十分に解明されたとは言いがたいからである。</p> <p>講義では、前近代中国社会の特質を知るうえで欠かせない中国農村社会の成立期のありようを見ることで、中国社会を理解する一助としてもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1, オリエンテーション 2, 現代中国事情（地理的概況など） 3, 中華文明の形成（新石器時代～殷周） 4, 氏族社会の崩壊と小農民の成立（春秋戦国時代） 5, 皇帝支配の成立と郷里社会（秦漢帝国） 6, 豪族の成長と郷里社会の変質（後漢時代） 7, 新集落の成立とその特徴（三国・晋時代） 8, 少数民族の侵入と社会の変化（南北朝①） 9, 農民支配の再編（南北朝②） 10, 中国社会の再統一と東アジア世界の動向（隋・唐） 11, 律令制的支配の特質とその崩壊（唐②） 12, 唐帝国の崩壊、新時代へ 13, 歴史展開から見た中国社会と国家の特質 	
テキスト、参考文献		評価方法	
堀敏一著『中国通史』講談社 その他講義中に配布するプリント・資料をテキストにする参考文献も講義中に紹介する		出席状況と筆記試験（記述その他、持ち込み不可）で評価する	

03 年度以降	外国史概説Ⅱ	担当者	久慈 栄志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>西欧における「近代化」課程の歴史を社会・文化・経済・宗教等の側面から考察し、我国に及ぼした影響をさぐるものがテーマである。「和魂洋才」の言葉が示すように、今日の日本社会においても、この考え方が生き続けている。</p> <p>明治維新によって近代化を成し遂げた我国が受容し、「血や肉」としてヨーロッパの「伝統」について考えたい。</p> <p>歴史事象の中から、ヨーロッパ圏内はもとより、周辺世界に対してもインパクトが大であった事項を取り上げ、その功罪を論ずる。</p> <p>テキストは特に指定しないが、下記の参考文献は本講義を理解する上で役に立つと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大下尚一／西川正雄／服部春彦／望田幸男編『西洋の歴史（近現代編）』【増補版】（ミネルヴァ書房） ・望田幸男編『西洋の歴史基本用語集』（ミネルヴァ書房） ・井上幸治編『西洋史入門』【増補版】（有斐閣双書） ・D・シュヴァニツ『ヨーロッパ精神の源流』（世界思想社） 		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 歴史叙述・歴史理論の変遷（古代～中世） 3. 歴史叙述・歴史理論の変遷（近代以降） 4. 同上 5. 「近代」の概念について 6. 宗教改革～その背景と「近代」の扉を開かせたインパクトについて 7. 同上 8. 市民革命～英仏両革命の比較 9. 同上 10. 産業革命～その「魔力」と社会的諸矛盾、社会主義の台頭など 11. 同上 12. 「近代」総括～その功罪について 13. 予備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>上記の参考文献を参照。</p> <p>また、高校世界史教科書及び、図録なども座右に置くことが望ましい。</p>		<p>試験を実施する。＜論述形式、ノート持込不可＞</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	地理学概説 I	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>自然環境と人間のかかわりについて、地理学的観点から具体的な事例をもとに考察する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な自然環境の見方を身につける。</p> <p>本講義では、身近な地域の環境を自然地理学の観点から分析する基礎として、まず地形図の利用法を扱う。その後、関東地方の自然地理的な特色とその基盤の上に立った人々の生活について説明する。</p> <p>*講義科目ではあるが、実習等を行う予定である。色鉛筆、定規等指示された用具を準備すること。高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション（講義の概要） 2.地形図利用の基礎(1) 地形図の基礎知識 3.地形図利用の基礎(2) 距離と面積、等高線と地形 4.地形図利用の基礎(3) 土地利用を読む 5.東京・関東の地形的特色(1)山の手と下町 6.東京・関東の地形的特色(2)武蔵野台地 7.東京・関東の地形的特色(3)荒川と利根川の低地 8.東京・関東の地形的特色(4)東京湾 9.東京・関東の地形的特色(5)関東山地 10.東京・関東の気候的特色(1)気候システムと気候のスケール、気候と景観、観測とデータ 11.東京・関東の気候的特色(2)山地の気候・平野の気候 12.東京・関東の気候的特色(3)海岸の気候・内陸の気候 13.東京・関東の気候的特色(4)都市気候と気候の変化 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。</p>		<p>試験とレポート（小課題）、出席状況</p>	

03年度以降	地理学概説 II	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の基本的概念を理解し、これらの概念を用いて、どのような研究が行われているかを展望する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な人文地理学の見方・考え方を身につける。</p> <p>本講義では、地理的知識の拡大と地理学の歴史を述べた後、地理学の主要概念のうち「環境」「景観」「場所と立地」「伝播」について解説する。さらに、人文地理学のいくつかのテーマを取り上げ理解の深化を図る。</p> <p>*高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.地理学の歴史（1） 2.地理学の歴史（2） 3.地理学の歴史（3） 4.地理学の主要概念（1）環境 5.地理学の主要概念（2）景観 6.地理学の主要概念（3）場所と立地（1） 7.地理学の主要概念（4）場所と立地（2） 8.地理学の主要概念（5）伝播 9.地理学のトピックス（1）メンタルマップ 10.地理学のトピックス（2）時間地理学 11.地理学のトピックス（3）地理情報システム 12.地理学のトピックス（4）教育と地理 13.まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。</p>		<p>試験とレポート（小課題）、出席状況</p>	

03年度以降	地誌学概説Ⅰ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。地誌学における主要概念である「地域」と地域分析法を理解した上で、日本を事例地域として地誌学的見方を身につけることを目的とする。</p> <p>本講義では、地誌学の方法、「地域」概念について講義した後、地域を扱う上で必要な文献や統計の収集法や利用法、統計分析など地域分析の手法を習得する。その上で、日本地誌を扱う。*受講者は地図帳を持参すること。講義科目であるが、実習を含むので、色鉛筆、電卓等授業中に指示された用具は各自用意すること。</p> <p>高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションー系統地理学と地誌学 2. 「地域」の概念 3. 地域分析の基礎（1）文献・資料・統計の所在と検索 4. 地域分析の基礎（2）統計の利用 5. 地域分析の基礎（3）統計の地図表現 6. 地域分析の基礎（4）空間分析 7. 地域分析の基礎（5）地域構造 8. 日本地誌（1）自然環境 9. 日本地誌（2）風土と地域文化 10. 日本地誌（3）人口分布と人口構造 11. 日本地誌（4）産業と地域変容（1） 12. 日本地誌（5）産業と地域変容（2） 13. 日本地誌（6）日本の地域構造 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。</p>		<p>試験とレポート（小課題）、出席状況</p>	

03年度以降	地誌学概説Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。本講義では、世界の地域構造を概観したのち、アメリカを事例地域としてとりあげ、地誌的見方を身につけることを目的とする。</p> <p>*受講者は地図帳を持参すること。</p> <p>高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界認識の基礎 2. 世界の地域構造とその変容（1）自然的基盤 3. 世界の地域構造とその変容（2）文化圏 4. 世界の地域構造とその変容（3）国家と経済 5. アメリカ地誌（1）ヨーロッパとは 6. アメリカ地誌（2）自然景観 7. アメリカ地誌（3）文化の諸相（1） 8. アメリカ地誌（4）文化の諸相（2） 9. アメリカ地誌（5）産業と経済（1） 10. アメリカ地誌（6）産業と経済（2） 11. アメリカ地誌（7）産業と経済（3） 12. アメリカ地誌（8）アメリカと世界 13. アメリカ地誌（9）地域構造 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。</p>		<p>試験とレポート（小課題）、出席状況</p>	

03年度以降	法律学概説 I	担当者	内山 良雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在します。そして、法は、社会内で生起する紛争を未然に防止し、発生してしまった場合の解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁であることはありません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となります。しかし、そのためには、法的素養を備えていることが強く求められるのです。</p> <p>そこで本講義では、最初に法の基本概念を解説したうえで、憲法に規定された基本原理や人権についての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 法とは何か 3. 法学とは何か 4. 法の学び方 5. 法体系の枠組みと法の分類 6. 憲法の基本原理（1）－国民主権－ 7. 憲法の基本原理（2）－平和主義－ 8. 憲法の基本原理（3）－基本的人権尊重主義－ 9. 国の統治機構 10. 平等権 11. 自由権（1）－精神的自由・経済的自由－ 12. 自由権（2）－人身の自由－ 13. 社会権 <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷實編著『エッセンシャル法学 [第4版]』成文堂		定期試験の答案に基づいて評価します。	

03年度以降	法律学概説 II	担当者	内山 良雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在します。そして、法は、社会内で生起する紛争を未然に防止し、発生してしまった場合の解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁であることはありません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となります。しかし、そのためには、法的素養を備えていることが強く求められるのです。</p> <p>そこで本講義では、社会のさまざまな場面と法との関わり合いについての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。法の基本的な事柄は、「法律学概説 I」で取り扱いますので、「法律学概説 I」を受講してから本講義を受講することを強く推奨します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 裁判の仕組み（1） 2. 裁判の仕組み（2） 3. 財産関係と法（1） 4. 財産関係と法（2） 5. 財産関係と法（3） 6. 経済取引と法（1） 7. 経済取引と法（2） 8. 家族と法（1） 9. 家族と法（2） 10. 犯罪・刑罰と法（1） 11. 犯罪・刑罰と法（2） 12. 医療と法（1）－医療提供の理念－ 13. 医療と法（2）－医療過誤－ <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷實編著『エッセンシャル法学 [第4版]』成文堂		定期試験の答案に基づいて評価します。	

03年度以降	政治学概説Ⅰ	担当者	山口 晃
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの日常の言葉と、政治学を考えるために使う専門的な用語とは、どのようにつながっているのか。出来事、制度、秩序を各人が見つけ、洞察し、考えていく中で、この二つの言葉と用語をつなぐ道を探っていく。地域社会に暮らす住民として、歴史の中の人間として、制度を支える市民として、私たち個人が、この政治学という学問に向かい合う。その自己認識の道を、理性と言葉を頼りに進んでいく。前期では、出来事から理論への道をたどる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 身近なところから政治を考える（1） 3 身近なところから政治を考える（2） 4 身近なところから政治を考える（3） 5 地域社会と政治 6 国民の視点で政治を考える（1） 7 国民の視点で政治を考える（2） 8 国民の枠を外して政治を考える 9 政治学にとっての古代と中世の意義（1） 10 政治学にとっての古代と中世の意義（2） 11 秩序について（1） 12 秩序について（2） 13 おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>毎回、講義のレジュメを配布する。 参考文献は、講義の中で随時紹介する。</p>		<p>試験、レポート、出席状況による総合評価</p>	

03年度以降	政治学概説Ⅱ	担当者	山口 晃
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの日常の言葉と、政治学を考えるために使う専門的な用語とは、どのようにつながっているのか。出来事、制度、秩序を各人が見つけ、洞察し、考えていく中で、この二つの言葉と用語をつなぐ道を探っていく。地域社会に暮らす住民として、歴史の中の人間として、制度を支える市民として、私たち個人が、この政治学という学問に向かい合う。その自己認識の道を、理性と言葉を頼りに進んでいく。後期では、民主主義がテーマとなる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 民主主義のいくつかの源流（1） 3 民主主義のいくつかの源流（2） 4 民主主義のいくつかの源流（3） 5 民主主義のいくつかの源流（4） 6 風土と政治（1） 7 風土と政治（2） 8 非政治的なるものと政治（1） 9 非政治的なるものと政治（2） 10 制度と政治（1） 11 制度と政治（2） 12 政治と言葉——市民社会—— 13 おわりに 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>毎回、講義のレジュメを配布する。 参考文献は、講義の中で随時紹介する。</p>		<p>試験、レポート、出席状況による総合評価</p>	

03年度以降	社会学概説Ⅰ	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。</p> <p>社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己(わたし)」について考えることでもある。</p> <p>本講義では、社会学の基礎的な概念のなかからとくに重要なものを取りあげ、それを現代的な文脈で考える。そのなかから、他者と自己との関係について、また社会的な視点とはどういったものなのかを学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——社会的な視座とは 2. 社会学の歴史(1)——A. コント、H. スペンサー 3. 社会学の歴史(2)——E. デュルケム 4. 社会学の歴史(3)——M. ウェーバー 5. 社会の種類(1) ——コミュニティとアソシエーション 6. 社会の種類(2) ——ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 7. 社会の種類(3)——第一次集団 8. アイデンティティ形成と社会(1) ——鏡に映った自己 9. アイデンティティ形成と社会(2) ——重要な他者 10. アイデンティティ形成と社会(3) ——役割取得 11. アイデンティティ形成と社会(4) ——マージナル・マン 12. 補完的アイデンティティについて 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のなかでその都度指示する		出席と期末試験	

03年度以降	社会学概説Ⅱ	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。</p> <p>まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。</p> <p>本講義は「社会学 a」の応用編でもあるため、受講にあたっては、春学期の「社会学 a」も合わせて受講することを強く推奨する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E. フロム 3. 同調様式の3類型——D. リースマン 4. 都市化と移民——W. I. トマスとF. W. ズナニエツキ 5. 同心円地帯説——E. パーージェス 6. シカゴ学派と都市問題——R. パーク 7. 社会問題と社会学(1) 8. 社会問題化すること(2) 9. 現代社会の諸問題(1)——移民と日本社会 10. 現代社会の諸問題(2)——未定 11. 社会学の現在(1) 12. 社会学の現在(2) 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のなかでその都度指示する		出席と期末試験	

03年度以降	哲学概説 I	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨今、哲学の復権が唱えられ自分探しの一環として哲学が一種の流行となっているが、それらをも包摂し相対化する視点こそが、今求められている。</p> <p>一般教養としての哲学史的知識も教職に必要であるが、教師として以前に、一人の人間として真摯に生きるために「哲学」が持つ意義を考えてもらいたい。</p> <p>西欧思想を歴史的にもしくは主題別に辿ることが、本講義の概要であるがそこには二つの偏りが存在していることを意識しつつ論じて行きたい。</p> <p>西欧哲学としての偏りと明治以降の輸入哲学としての偏りである。哲学をギリシア起源の「学」としてのみ捉えるのではなく、幅広く「思想」として捉え、政治・社会・宗教・歴史・科学等への影響をも視野に入れて論じたい。</p> <p>個々の思想家の経歴や思想の細部の紹介は、テキストに譲り、彼らとその思想を形成した動機や課題、歴史的位置付けなどを重視して論じる。</p> <p>春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。</p>		<p>1 哲学とは何か（1）</p> <p>2 ソクラテス以前</p> <p>3 ソクラテス</p> <p>4,5,6 プラトン、アリストテレス、</p> <p>7 スコラ哲学</p> <p>8 科学革命</p> <p>9 ルネサンスと宗教改革</p> <p>10 合理論と経験論（1）</p> <p>11 合理論と経験論（2）</p> <p>12 社会契約説</p> <p>13 啓蒙主義</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『21世紀への哲学的挑戦』角田幸彦編著 東信堂 (2800円＋税) 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03年度以降	哲学概説 II	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期のみを受講することは、出来るだけ避けてください。</p> <p>(春学期に同じ)</p>		<p>1,2,3 カント、ドイツ観念論</p> <p>4 キルケゴール</p> <p>5 ニーチェ</p> <p>6 マルクス</p> <p>7,8 フッサール・ハイデッガー・ヤスパース</p> <p>9 歴史主義・解釈学</p> <p>10 ウィトゲンシュタイン</p> <p>11 構造主義</p> <p>12 言語哲学</p> <p>13 哲学とは何か（2）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『21世紀への哲学的挑戦』角田幸彦編著 東信堂 (2800円＋税) 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03 年度以降	倫理学概説 I	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければいけない倫理学の基礎的知識を得るために、東洋及び西洋の古代から近世に至る倫理学の学説を広く概観する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。</p> <p>宗教・文化・歴史研究VI (倫理学 a) では、東洋では古代の中国、西洋では古代ギリシャの夫々に思想家における倫理思想を扱うことから始める。中世の倫理思想および仏教、キリスト教、およびイスラム等の世界三大宗教の倫理思想、およびカント・ヘーゲル等の近世までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。そして、その自分の立場および見解を論理的に表現することのできるようにできる練習も同時にする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 代中国の倫理思想 (老子、荘子、孔子、孟子) 2. 古代中国の倫理思想 (告子、墨子、荀子、韓非子) 3. 古代ギリシャの倫理思想 (ソクラテス、プラトン、アリストテレス) 4. 古代ギリシャ、ローマの倫理思想 (エピキュロス、ストア、キケロ、セネカ、エピクテトス、マルクス・アウレリウス) 5. 中世の倫理思想 (アウグスチヌス、アベラール、トマス・アクィナス、オッカム、ドンス・スコトゥス) 6. ディスカッション (人間とは何か) 7. 宗教と倫理 (仏教倫理と儒教倫理) 8. 宗教と倫理 (キリスト教倫理とイスラム倫理) 9. 近世の倫理思想 (デカルト、ホブズ、スピノザ、ライプニッツ、ベンサム、グリーン) 10. 近世の倫理思想 (ヒュームとカント) 11. 近世の倫理思想 (カント) 12. 均整の倫理思想 (ヘーゲルとケルケゴール) 13. ディスカッション (人間として何をすべきか、幸福と自然) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		ディスカッションへの出席と試験。	

03 年度以降	倫理学概説 II	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければいけない倫理学の基礎的知識を得るために、近世から現代に至る倫理学の学説を広く概観する。同時に現代の自然科学の発展と医学の進展がもたらした、現代に特有の自然科学者の倫理問題、技術開発に伴う倫理、医療およびその基礎にある生命倫理についての考察も習得する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理・道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを実地に習得することを目標とする。この倫理思想の実地の習得はディスカッションを学期内に二度ほどすることによって遂行する。</p> <p>東洋では日本の近現代の倫理思想および近代生活への浸透に伴う進化論の影響とそれに基づく倫理思想、および現代にまで続くニヒリズム思想までの倫理学説を取り上げる。また、大まかな時代区分に応じた区切りのところでディスカッションをする。そのディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の倫理思想 (儒学と明治思想と和辻哲郎) 2. 進化論と倫理思想 (ダーウィン、スペンサー、ミル、ブラドレー、ロイス) 3. ニーチェとニヒリズム 4. 私と汝 (ブーバーと西田幾多郎) 5. 社会主義倫理と資本主義倫理 6. ディスカッション (ひとは何故ひとを殺してはいけないのか) 7. 自然科学と倫理 8. 技術と倫理 9. 医療と倫理 10. 環境と倫理 11. 環境と倫理 II 12. 自然と人間 13. ディスカッション (ひとは何故ひとを殺してはいけないのか) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		ディスカッションへの出席と試験。	

03年度以降	宗教学概説 I	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>戦後教育が宗教について意識的に或いは無意識的に避け続けてきた為、現代の日本人は宗教に関して一種の「真空状態」に置かれており、そこから様々な問題が昨今生じている。</p> <p>そこで本講義は、宗教学の学的体系性よりも、むしろ諸宗教の歴史と現在についての一般的概括的知識を得られるようにすることを重点とする。更に教職科目であることにも鑑み、宗教教育のあり方についても論じたい。</p> <p>前期は洋の東西、今昔を問わず世界史上の諸宗教の歴史と現在について説明し、宗教の果たして来た役割・問題点について考えてもらう。</p> <p>春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。</p>		<p>1 宗教とは何か (1)</p> <p>2 神話と宗教</p> <p>3 ユダヤ教</p> <p>4 キリスト教 (1)</p> <p>5 キリスト教 (2)</p> <p>6 キリスト教 (3)</p> <p>7 イスラム教 (1)</p> <p>8 イスラム教 (2)</p> <p>9 ヒンドゥ教 (1)</p> <p>10 ヒンドゥ教 (2)</p> <p>11 仏教 (1)</p> <p>12 仏教 (2)</p> <p>13 仏教 (3)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『よくわかる宗教社会学』櫻井・三木編著 ミネルヴァ書房 (2400円+税) 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03年度以降	宗教学概説 II	担当者	河口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は春学期に同じ。春学期の続きの後に秋学期は、日本の宗教の歴史と、日本人の宗教的心性の形成にまず触れ、その後に宗教的諸概念についての理解を深め、日本や欧米の先進国において宗教集団が現在持っている意義や問題点を論じた上で、宗教教育の是非・可能性を論じる。</p> <p>秋学期のみを受講することは、出来るだけ避けてください。</p>		<p>1,2,3 儒教, 道教</p> <p>4 日本の宗教の歴史と現在 (1)</p> <p>5 日本の宗教の歴史と現在 (2)</p> <p>6 日本の宗教の歴史と現在 (3)</p> <p>7 宗教上の諸概念(儀礼・戒律・修行など) (1)</p> <p>8 宗教上の諸概念(儀礼・戒律・修行など) (2)</p> <p>9 宗教団体の諸問題 (1)</p> <p>10 宗教団体の諸問題 (2)</p> <p>11 学校教育と宗教 (1)</p> <p>12 学校教育と宗教 (2)</p> <p>13 宗教とは何か (2)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『よくわかる宗教社会学』櫻井・三木編著 ミネルヴァ書房 (2400円+税) 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は2/3以上必要)	

03 年度以降	心理学概説 I	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと心の健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。</p> <p>本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。</p>		<p>以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 2. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 3. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 4. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 5. 性格とは？：自己の性格理解 6. 性格理論 7. 性格の形成 8. ストレス①：ストレスと性格 9. ストレス②：ストレス・コーピング 10. ストレス③：ストレスの生理心理学 11. 現代社会とこころの病① 12. 現代社会とこころの病② 13. 生きがいとこころの健康 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。		出席，小レポート，試験により評価する。	

03 年度以降	心理学概説 II	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらおう。これらのことを通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。同時に、自己理解を深めてもらいたい。心理検査やグループワークを実践した後は、結果などをレポートにまとめてもらおう。また、関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともある。</p> <p><u>※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費(1,500円程度)を負担してもらおう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。</u></p>		<p>授業計画は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理検査の成り立ちと種類 2. 質問紙による性格検査① 3. 質問紙による性格検査② 4. 職業への興味 5. 将来の夢 6. 感情のIQ 7. 知能検査 8. 絵からみる家族像 9. ストレス・コーピング 10. グループ・ワークによる自己理解① 11. グループ・ワークによる自己理解② 12. グループ・ワークによる自己理解③ 13. 検査結果のまとめと自己理解 	
テキスト、参考文献		評価方法	
各種の心理検査用紙はこちらで用意する。ただし、履修者には、これら心理検査用紙にかかる費用を負担してもらおう予定である。		出席状況と授業レポートにより総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	生涯学習概論	担当者	渋谷 英章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「生涯学習社会」は、現在ではあたりまえの言葉になっているが、ともすれば「学校を終えた人々に十分な学習機会が提供されれば生涯学習社会は完成する」という表面的で一面的な理解にとどまることが多い。この授業では、学校教育と社会教育をともに変革して両者の統合を図ることが、生涯社会の基本的な課題であり、また生涯学習こそが現代社会の課題解決の鍵であるという視点から、生涯学習社会におけるフォーマル教育、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育のあり方とそれらの関係性を中心に、生涯学習の基本について理解を深める。</p> <p>まず、現代において「生涯学習社会」が求められる背景と生涯教育の理念を検討する。そのうえで、生涯学習社会における社会教育および学校教育のあり方を考える。そして、これらをもとに、日本の生涯学習の現状と課題を分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯学習社会とは 2 生涯にわたる学習機会の多様性と類型化 3 「生涯教育論」と学校 4 社会教育の定義と社会教育法 5 社会教育の特質 6 ベダゴジーとアンドラゴジー 7 生涯教育から生涯学習へ 8 生涯各期の学習 9 学習成果の活用と評価 10 現代的課題と生涯学習（1） 一少子高齢化と生涯学習一 11 現代的課題と生涯学習（2） 一地球環境、社会開発と生涯学習一 12 学社連携と学社融合 13 ソシアルキャピタルと生涯学習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献として、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター[編]『生涯学習概論』文憲堂		「生涯学習体験レポート」と「最終課題レポート」をもとに評価する（両者とも必須）。	

03年度以降	図書館概論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館や情報センター、企業や美術館・博物館などに付設する専門図書館、国会図書館など多様な種類がある図書館についての概観。利用者として図書館の効果的な活用をめざすことから、バックヤードの仕事を把握することにより、国家資格としての司書資格取得をめざす。</p> <p>具体的には、図書館の意義、図書館の種類、図書館の機能・課題・動向、図書館政策、関係法規、図書館と類縁機関 等の関係について解説する</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と図書館 2. 図書館法規と行政 3. 図書館の歴史的展開 4. 図書館の理念 5. 図書館員と司書 6. 図書館の実務 7. 地域社会と公共図書館 8. 地域社会と学校図書館 9. 地域社会と大学図書館 10. 国立国会図書館 11. 専門図書館など 12. 図書館ネットワーク 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>塩見登編著「図書館概論」(シリーズⅡ) 日本図書館協会、2008</p> <p>そのほか参考資料については授業開始時に説明する。</p>		<p>授業参加(出席など)・・・25%</p> <p>小レポート・・・25%</p> <p>試験・・・50%</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	図書館サービス論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>公共公立図書館を中心として、その図書館活動の実務を理解し、情報資料・人的資源の効率よい図書館活動とは何かや図書館活動に関わる組織・管理・運営、各種計画などについて理解する。また、その活動評価についても考えていく。特に、利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに各種サービスの特質を明らかにする。</p> <p>受講者がそれぞれ利用者として体験してきた図書館活動を考えながら、整理して、サービス対象にあわせた内容の目的や効果など評価していく。</p> <p>具体的には利用者と直接関わる図書館サービスの意義やその特質、方法について学習し、利用者や各種サービスの特質を明確化していく。現場の図書館での実際を学び、さらに改善点などを考えていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 図書館サービスの意義 2 来館者へのサービス ー貸出、利用援助などー 3 資料提供の基礎 4 資料提供の展開 ー著作権法と図書館ー 5 情報提供 ーレファレンス・サービス(参考調査業務)ー 6 集会・文化活動、行事など 7 利用対象者別サービス(1)子ども 8 利用対象者別サービス(2)高齢者 9 多様な利用者サービス <ul style="list-style-type: none"> ー図書館利用を阻害されている人々へのサービスー 10 利用者の交流の場としての図書館 11 図書館マーケティング活動 12 図書館サービスと図書館員・司書 13 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
小田光宏編著「図書館サービス論」日本図書館協会、2005		授業参加(出席など)・・・25% 小課題・・・25% 試験・・・50%	

03年度以降	図書館経営論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>多くの図書館では、人材派遣や契約職員、アルバイト、ボランティアなどの人々が働いている。正職員であったとしても、必ずしも司書有資格者とは限らない。したがって、司書有資格者の主な仕事は資料管理運営から財政管理や人事管理、スタッフ教育、さらに自己継続教育といった内容にシフトしており、そのための戦略的計画や積極的な図書館活動のためのプロモーション、資金獲得のための政治的手腕が求められている。そのため、企業の経営管理運営理論を参考にして、実際の公共図書館の例をケース・スタディとして学習しながら、現状の把握と問題点、さらにどのような戦略的活動が求められているのかを学ぶ。</p> <p>なお、図書館での職員集団がどのように経営していくかを実践するため、グループでの討議をおこなうので授業参加(出席)を重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.情報社会と図書館の情報戦略 2. 企業の経営理論 3. 公的セクターの経営理論 4. 図書館法政策と図書館経営の実態 5. 地方自治体の図書館政策 6. ケース・スタディ(1) 図書館サービス活動 7. 財政と図書館経営ーPFI や委託の問題ー 8. 人事管理ー専門職の役割と委託などの問題ー 9. ケース・スタディ(2) 人事管理 10. 事業計画策定と評価 11. ケース・スタディ(3) 図書館評価 12. 図書館での危機管理 13. ケーススタディ(4) 課題への対応 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業開始時に参考文献リストを配布するほか、必要な資料を授業ごとに渡す。またインターネット上の数値なども活用することになる。		小課題(1p～3p程度)を提出。また、出席をかねた授業内でのグループ討議などの授業参加度によっても評価します。課題60% 授業への参加度40%	

03 年度以降	情報サービス論 a	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】本講義での情報サービスとは、図書館の情報提供機能を具体化するサービス全般のことをいうが、これにはレファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、さらには CD-ROM やオンラインの検索サービス等、さまざまなサービスが含まれる。本講義ではこの情報サービスの総合的な理解を目指す。</p> <p>【概要】春学期では、図書館の情報サービスについての基本的な事項を解説する。より具体的には授業計画を参照のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 受講者の確認。授業方法等について説明。 2 情報サービスの概要と実際（ビデオ鑑賞等） 3 レファレンスサービス 4 利用案内、レフェラルサービス 5 カレントアウェアネスサービス、検索サービス 6 前半部分のまとめ。質問受付。 7 発展的情報サービス 8 情報サービスで用いる情報源の類別 9 レファレンスコレクションの構築・評価 10 情報サービスにおけるコミュニケーション 11 最新の情報サービス 12 最新の情報サービス 13 授業全体のまとめ。質問受付。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

03 年度以降	情報サービス論 b	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】本講義での情報サービスとは、図書館の情報提供機能を具体化するサービス全般のことをいうが、これにはレファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、さらには CD-ROM やオンラインの検索サービス等、さまざまなサービスが含まれる。本講義ではこの情報サービスの総合的な理解を目指す。</p> <p>【概要】秋学期においては主に、情報サービス(特にレファレンスサービス)の実践的能力を養成するために、参考図書等さまざまな情報源を用いた検索および回答の実習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 実習についての説明 2 情報サービスで用いる情報源の類別 3 辞書 4 事典 5 便覧／図鑑 6 前半部分のまとめ。質問受付。 7 歴史／地理・地名の情報源 8 人物・団体の情報源 9 統計の情報源 10 文献検索の情報源(1) 11 文献検索の情報源(2) 12 最新の情報サービス 13 授業全体のまとめ。質問受付。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

03 年度以降	情報検索演習	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に、コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を、解説および実習を通して体得する。</p> <p>【概要】本講義ではまず、情報検索に関する基礎的な概念について解説する。そしてその知識を踏まえた上で、実際の情報検索技術に慣れ、習熟するために、WWW の検索エンジンや CD-ROM データベース、商用オンラインデータベースを用いた情報検索の実習を行う。実習では可能なかぎり、受講者が今後の調査／研究活動で利用できるような情報源を紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション；情報検索の概要 2 情報検索の種類と歴史 3 データベース 4 検索がうまくいかないとき 5 索引語 6 シソーラス 7 前半部分のまとめ；質問受付 8 情報検索関連作業のプロセス 9 検索式 10 検索式 11 検索結果の評価 12 CD-ROM 検索 13 授業のまとめ；質問受付 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報検索演習	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>情報検索の基本的理論を学び、実習する。</p> <p>まず、情報検索システムで、情報の入手、主題分析、検索キーの作成、索引、データベースといった諸項目と、情報要求、検索式、シソーラスの利用、索引との照合、検索結果の評価といった諸項目を順に解説する。</p> <p>検索式の解説では、ブール演算子を用いた情報検索の表現方法を、またシソーラスについてはその構成と目的を、さらに実際の検索および結果の評価では、再現率と適合率等について学ぶ。</p> <p>実践的な情報検索能力を養うために、オンライン検索ではインターネット上の各種情報検索システムできるだけ活用する。CD-ROM を使用したオフライン検索では練習用の J-BISC による実習を行う。</p>		<p>1 ガイダンス：情報検索とは</p> <p>2 情報検索(1)：情報検索システム：蓄積サブシステムと検索サブシステム</p> <p>3 情報検索(2)：検索サブシステムと諸項目</p> <p>4 情報検索(3)：情報検索の理論</p> <p>5 データベース(1)：データベースと情報検索</p> <p>6 データベース(2)：蓄積サブシステムと諸項目</p> <p>7 インターネットの情報検索(1)：検索エンジンと諸項目</p> <p>8 インターネットの情報検索(2)：検索エンジンの利用</p> <p>9 図書の検索(1)：OPAC</p> <p>10 図書の検索(2)：JBISC</p> <p>11 商用のデータベース利用(1)：JOIS のシソーラスとその利用</p> <p>12 商用のデータベース利用(2)：JOIS 演習</p> <p>13 総合問題、まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
原田、江草、小山、沢井共著『情報検索演習』新・図書館学シリーズ 6、樹村房、2006 (3訂)		4～5 回程度の自習レポートおよび出席を加味して評価する。	

03 年度以降	図書館資料論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館の機能の基本である資料について学習する。資料の種別、資料選択の考え方、資料構築方針や資料保存・更新などについての実務を学ぶ。</p> <p>書店やマスコミ、インターネットという多様な情報提供源とは異なる、民主主義社会の基礎となる情報提供源である図書館の役割と意義、使命について考える。検閲や焚書といった印刷メディアから視聴覚メディアや電子メディアなどの情報提供に対する批判や圧力などについて考える。図書館や図書館員がどのような役割をはたすべきなのかを考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 図書館資料の定義 2 図書館における知的自由 3 印刷資料メディア 4 視聴覚資料メディア 5 触覚資料メディア 6 立体資料メディアなど 7 電子資料メディア 8 特殊資料メディア・専門資料メディア 9 出版・流通・販売 10. 図書館資料コレクション形成方針 11. コレクション形成の実務 12. 資料の更新・保存・廃棄 13. メディア転換など <p>ほぼテキストにしたがって講義中心でおこなう。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
馬場俊明編著「図書館資料論」新訂版、日本図書館協会、2004		授業参加（出席など）・・・・・・・・・・25% 小課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・25% 試験・・・・・・・・・・・・・・・・・・50%	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	専門資料論	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 大学図書館、医学医療、法律、ビジネス支援、文化芸術の分野で専門主題を扱う主題情報専門家への期待がある。</p> <p>「専門資料論」では、さまざまな主題分野における特有な専門資料の種類、記述様式、内容などを知り、それらを実際に使いこなせることを目標としたい。</p> <p>(概要) この授業では主として人文科学、社会科学、自然科学等の諸分野における多様な図書館活動を知るとともに、それぞれの分野における特色ある情報・資料の多様性と、その記述形式、活用法等について学ぶ。 また、学生が専攻する専門領域に特有な専門資料とレファレンス・ツールと学術的インターネット情報資源についても調査し、ゼミテーマや卒業論文に関係する情報源を選別する方法を学ぶ。</p> <p>グループ学習と研究発表を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 専門資料の定義と構造及び種類 3. 学術情報の連環と情報へのアクセス行動 4. 医学医療情報 5. 音楽情報 6. 美術情報 7. 法律情報 8. 経済情報 9. 文学情報 10. 異文化情報 11. グループ研究発表 (1) 12. 同 (2) 13. 専門分野におけるサブジェクト・リエゾンの養成 	
テキスト、参考文献		評価方法	
「新訂 専門資料論」(東京書籍、2004) 適宜プリントを配布する。		出席 (30%)、課題レポート (30%)、最終課題 (40%) による総合的評価を行う。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	資料組織概説	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 図書館が扱う情報資料（図書、雑誌、視聴覚資料、電子資料、インターネット情報資源等）の内容や主題を文字情報や記号によって代替し、アクセスを組織化する理論と技術を学ぶ。</p> <p>(概要) 図書館が扱う媒体に記録されている情報や資料を一定の基準でデータ化する方法を学ぶ。 物理的実体のある情報媒体にアクセスする手がかりである「記述目録法」や「主題目録法」に関する理論と技術を学ぶ。さらに物理的実体の無いインターネット情報資源の記録法についても触れる。 以上について、伝統的な理論と技術とともに情報が電子化されインターネットが拓いたグローバルな情報世界における情報の記録化の国際的動向についても学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報・資料の組織化とは 2. OPAC（オンライン公開目録）データベースの内容 3. NCR（日本目録規則）による書誌情報の記録化 4. NCRによる書誌情報へのアクセス 5. NCRの限界と対応（書誌階層、書誌コントロール） 6. NDCと主題からのアクセス 7. NDC（日本十進分類法）による主題分析と主題目録 8. BSH（基本件名標目表）による主題からのアクセス 9. 資料組織化と書誌ユーティリティ 10. インターネット情報資源の保存と組織化 11. インターネット情報資源とメタデータ 12. 情報・資料へのアクセスとパスファインダ 13. 情報・資料の組織化、国際的動向 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>「資料組織概説 新訂版」柴田正美著 (JLA 図書館情報学テキストシリーズ9) 適宜プリントを配布する。</p>		出席（30%）、課題提出（30%）、最終レポート（40%）により総合的に評価する	

03 年度以降	資料組織演習	担当者	松下 鈞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 「資料組織概説」の履修を前提として、NCR（日本目録規則）による情報・資料の記述目録の作成、NDC(日本十進分類表)による主題目録の作成及び解読によって、資料・情報組織化の基礎技術を習得する。 また、ダブリンコア・メタデータ記述要素を使って、インターネット情報資源のデータベース化に関する基礎技術を習得する。</p> <p>(概要) 図書、マルチメディア等の情報・資料について、NCR(日本目録規則)の記述目録を作成する。 また、それらの情報・資料に書き込まれた主題を分析的に読み取り、その主題をNDC（日本十進分類法）を用いて主題目録を作成する。 インターネット情報資源について、DCMIの記述要素を適用してメタデータ・データベースを作成する。 図書館における情報・資料の組織化の実務について、見学・実習等を通して学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 情報・資料組織化に関する基礎知識の再確認 3. NCRによる記述目録法（1） 4. 同（2） 5. 同（3） 6. NDCによる主題目録法（1） 7. 同（2） 8. 同（3） 9. BSH（基本件名標目表）による主題目録法 10. 図書館における情報・資料の組織化（見学研修） 11. インターネット情報資源の組織化（1） 12. 同（2） 13. 同（3） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>「資料組織法 第5版」志保田務、高鷲忠美（第一法規） 適宜プリントを配布する。</p>		出席（30%）、課題提出（40%）、最終課題（30%）により総合的に評価する。	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	児童サービス論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目ではおおむね年齢別利用対象者別におこなわれている公共図書館活動について、現状を把握し、将来的な戦略計画を策定可能になることを目的とする。</p> <p>読書しないといわれる子どもやヤングアダルトと称せられる10代の図書館利用者（潜在的利用者）に対する戦略的で効果をあげうるべき図書館プログラムを企画・実施し、評価に耐えうる内容を考えられる専門職としての児童・YA担当司書を養成することを目的とする。</p> <p>幅広く、多くの児童書やYA向け資料を読んでもらうことになるので、授業が始まるまでにリストを渡すので、そのリストの本を読んでおいてほしい。</p> <p>発達心理や読書心理、児童文化やYA文化、社会問題などについての研究書などについても読んでもらうことになるが、できるだけこれら関係するほかの科目（例えば心理学や子ども論など）も受講しておくことをすすめておきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.はじめに。図書館における児童・YAサービスとは何か？ 2.地域社会における「子ども」のイメージは何か？ 3.幼児サービス 4.小学校など児童対象の図書館サービス 5.中学校や高校など10代のヤングアダルト対象の図書館サービス 6.児童・YA図書館活動の歴史 7.子どもをとりまく大人への図書館活動 8.アウトリーチ・サービスと子どもたちの知的自由 9.図書館活動をめぐる諸問題－法律と政策、インターネットなど 10.実際の図書館活動推進のための企画・立案、年間計画策定など 11.児童やYA向けの図書館建築における設備など 12.児童・YA図書館活動における現状と将来 13.まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業開始時に参考文献リストを配布する。絵本や児童書リストはあらかじめ春学期中に配布するので授業支援システムをみるか、直接734研究室までとりにくこと。</p>		<p>授業参加（出席など）・・・12%</p> <p>課題・・・・・・・・・・88%</p> <p>※課題をすべて提出した場合のみ評価対象とする。</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	図書および図書館史	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館資料論で学んだことを基礎として、その資料の出版・流通の歴史、メディア史、それら多様な資料を提供してきた図書館の発達の歴史を文化史の側面から学ぶ。</p> <p>欧米と日本を中心に講義していく。</p> <p>図書の歴史では印刷を含めた出版の歴史、流通の歴史、書店の歴史、さらに新しいメディアについて学ぶ。電子図書の貸出にいたる歴史をおさえていく。紙を中心とした製本や修理などの技術面についてもふれていく。</p> <p>図書館の歴史では、図書館建築の歴史をふまえて図書館という公共の場の意義を考える。さらにコミュニティ形成の場としての公共図書館をハーバーマスの公共空間論から分析して議論していきたい。資料選択や提供、それを扱う司書の役割が時代や地域によって異なっている。本の番人ではなくなった現代の司書にいたる変遷を考える。戦争と図書館の関係についても論じていきたい。2度にわたる世界大戦やボスニア紛争、イラン・イラク戦争でターゲットにされた図書館の存在意義についても考えていきたい。</p> <p>中学や高校で学んだ世界史・日本史の知識を基礎として、授業をすすめていくので復習しておくことをすすめる。できれば世界史・日本史の概観をまとめた本を読んでおかれると授業が理解しやすいだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館の「本」とは何か。多様な書写材料と図書館 2. 貴重書の実際 3. 図書館の歴史－図書館建築の歴史、文房具の歴史、書架の歴史、分類・目録の歴史、図書館員の歴史などー 4. アレクサンドリア図書館からヨーロッパ中世の図書館 5. 産業革命と市民社会、近代公共図書館 6. アメリカの図書館 7. 公共図書館の誕生 8. 戦争と図書館 9. 日本での図書館前夜 10. 日本の図書館誕生－明治・大正・昭和前期－ 11. 日本市民社会の図書館 12. 情報流通と図書館の歴史 13. 図書館の未来 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業開始時に参考文献リストおよび映像資料リストを配布する。		授業参加（出席など） 26% 小課題 30% 最終課題 44%	

03 年度以降	資料特論	担当者	千葉 治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館は、「本との出会い、人との出会い」のひろばであり、多様な資料・情報が集積され利用される。公共図書館の実践に基づき、郷土資料・行政資料・視聴覚資料などの各資料の特質を論じ、その収集・利用等について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館資料の種類 2. 寄贈資料・寄託資料 3. 新聞・雑誌 4. 郷土資料 5. 自作郷土資料 6. 行政資料・観光パンフレット 7. 視聴覚資料 8. 自作視聴覚資料・絵画・写真 9. 地図・電話帳・図録・楽譜 10. 子どものための資料・大型紙芝居等 11. 図書館利用に障害のある人のための資料・多文化サービス 12. 県立図書館・国立国会図書館の資料 13. まとめ・小テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布 各地の図書館などをビデオで紹介する。 ちばおさむ著『本のある広場』教育史料出版会 1992 ちばおさむ等著『図書館の集会・文化活動』(図書館員選書9)日本図書館協会 1993</p>		<p>レポート 50%・小テスト 25%・出席状況 25%</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	コミュニケーション論	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>インターパーソナルなコミュニケーションを中心に、現代におけるコミュニケーションの特性とその概要について解説する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ①プロローグ ②コミュニケーション・モデル：その1 ③コミュニケーション・モデル：その2 ④コミュニケーション・モデル：その3 ⑤言語と非言語：その1 ⑥言語と非言語：その2 ⑦言語と非言語：その3 ⑧マズローの三角形 ⑨ジョハリの窓 ⑩イノベーションの普及過程 ⑪グループ討議 ⑫グループ・プレゼンテーション ⑬エピローグ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献リストを配付する。その中からトピックに関連するページをコピーして使用する。</p>		<p>出席回数／個人レポート／グループ発表とレポート ／筆記試験</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	図書館特論	担当者	千葉 治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>図書館は、「本との出会い、人との出会い」のひろばであり、「図書館は成長する有機体である」(ランガナタン著『図書館学の五法則』)ともいわれる。公共図書館の実践に基づき、「土地の事情及び一般公衆の希望に沿い」(図書館法第三条)の視点で、図書館における今日的な課題について取り上げ解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の図書館概観Ⅰ 2. 日本の図書館概観Ⅱ 3. 図書館と戦争責任の問題 4. 職場の話し合いと仕事の改善 5. 文庫活動 6. 図書館の集会機能Ⅰ 7. 図書館の集会機能Ⅱ 8. 図書館活動への住民参加 9. 図書館評価 10. 複合問題 11. 委託問題 12. コミュニケーションを大切に 13. まとめ・小テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布 各地の図書館などをビデオで紹介する。 ちばおさむ著『本のある広場』教育史料出版会 1992 ちばおさむ等著『図書館の集会・文化活動』(図書館員選書9)日本図書館協会 1993</p>		レポート 50%・小テスト 25%・出席状況 25%	

03年度以降	学校経営と学校図書館	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本科目は学校図書館司書教諭免許取得のための必修科目のなかでは入門としての概論にあたる。学校図書館とは何か、学校図書館司書教諭とはどのような仕事をするのか、などを講義していく。学校図書館の機能として、教育・学習センター、資料センター、情報センター、教材開発センター、マルチメディア（含む視聴覚資料）センターなどの役割と機能を整理して理解する。</p> <p>学校図書館司書教諭は学校図書館長として、資料管理や人事管理など経営者としての役割と仕事が求められる。学校図書館を活用し、総合的な学習など創造的な授業を構築する教員集団の援助活動も求められている。</p> <p>この科目では、これらの役割について、内容を把握し、その使命を認識し教育現場で実施できるようになることを学習目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 学校図書館の理念と教育的意義 2 学校図書館の発展と課題 3 教育行政と学校図書館 4 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修 5 学校図書館メディアの選択と管理 6 学校図書館メディアの提供・活用 7 学校図書館の経営（1）施設設備管理 8 学校図書館の経営（2）人事管理 9 学校図書館の経営（3）予算・決算など 10 学校図書館の経営（4）評価 11 総合的な学習や調べ学習と学校図書館 12 図書館の相互協力とネットワーク 13 学校図書館活動計画策定 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(参考文献) 澤利政著「学びを豊かにする学校図書館」関西学院大学出版会、2004. ¥2,200</p>		<p>授業参加（出席など）・・・25% *実習以外は欠席を認めない。 小課題・・・25% 最終課題・・・50% *全課題提出を評価対象条件とする。</p>	

03年度以降	学校図書館メディアの構成	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(ねらい) 学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成を図る。</p> <p>(概要) (1) 資料選択。 どのような資料が授業で活用できるのか、どのような資料がどの年齢層あるいはどのような興味関心を持っている子どもに薦められるのか、などについて選択理論をおさえ、専門職としての資料選択力を身につけることを目的とする。 (2) 資料組織化の実習。 学校図書館メディア・センターにはどのような資料を所蔵するのか、それをどのように分類・目録化し、データベース化するのかの基本を学び、実習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校図書館メディア資料の種類と特性 2. 資料選択理論。子どもたちの知的自由と学校図書館の使命 3. 資料選択の実際。 4. 資料選択と検閲・焚書 5. 分類－日本十進分類法（NDC）－の構造 6. 分類の実際(1)図書・雑誌・新聞 7. 分類の実際(2)メディア資料・クリッピング資料 8. 目録－日本目録規則（NCR）－の構造 9. 目録化の実際(1) 10. 目録化の実際(2)クリッピング資料のDB化 11. 目録化の実際(3)地域資料のDB化 12. 目録検索・・・図書館所蔵目録 13. 検索から目録化、電子ファイル化へ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(必須テキスト) 日本図書館研究会編「図書館資料の目録と分類増訂第3版」(ISBN4-930992-16-8) 2005. ¥900 (参考)「日本十進分類法新訂9版」日本図書館協会、1995</p>		<p>授業参加(出席)・・・25% *実習以外は欠席を認めない。課題演習が中心となるので欠席しないようにしてください。 課題（ほぼ隔週提出）・・・75%</p>	

03年度以降	読書と豊かな人間性	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(ねらい) 児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法の理解を図る。</p> <p>(内容) 読む・書くという意味での読書をいかに子どもたちを楽しみながら、自分の言葉で自分自身を表現できるようにするかを実際に子どもの本を読みながら、授業として構築していく。講義と実習を組み合わせる。この科目の目標は、各受講者が<u>リーディング(読む)</u>と<u>リテラシー(書く)</u>という読書力養成を目的とする授業を構築し、学習者に教授できるようになることにある。授業案が作成できるようになることを第一段階とする。</p> <p>この科目ではその役割をはたすため、どのような読書資料があるのか、そしてその読書資料をどのように言語教育やリテラシー教育に活用するのかを学び、かつ学校内外での調整役としての役割と責任を学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの読書状況 2. 読む・書くという識字力・読書力について考える 3. 子どもの発達心理・読書心理、読書傾向と知的好奇心 4. 実際に読んでみる(1) 中高生にとっての絵本 5. 実際に読んでみる(2) 児童・YA文学: ハリーポッターからカラマゾフの兄弟へ。10代は何を読んでいるか? 6. 読書プログラムの検討 7. 読者育成のための教案作成 8. 「読みて」から「書きて」育成のための教案作成 9. 家庭での読書 10. 地域社会や公共図書館との連携による読書振興 11. 子どもの読書と知的自由 12. 子どもの読書をめぐる法政策 13. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業開始時に指示する。できるだけ多くの子どもの本を読んでもらうことになるので、大学図書館や公共図書館などを利用。</p>		<p>授業参加(出席など)・・・25% *実習以外は欠席を認めないので注意すること</p> <p>課題(3×25%)・・・75% *全課題提出を評価対象条件とする。</p>	

03年度以降	学習指導と学校図書館	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(ねらい)</p> <p>学習指導における学校図書館メディア活用についての理解を図る。</p> <p>(内容)</p> <p>教科指導のなかで、あるいは「総合的な学習」で学校図書館と図書館資料、情報メディアを活用してどのような指導が行えるか、指導教案作成をおこなう。さらに、児童・生徒たちに調べてもらうために、教師自身が情報探索能力をみにつけておくことが求められるので、情報探索活動能力(情報リテラシー)養成を目標とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課題と学校図書館 2. 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択 3. 学校図書館情報メディア活用能力の育成 4. 学習過程における学校図書館メディア活用の実際 5. 授業指導の実施(実習・発表) 6. 情報探索能力育成 レファレンスと調べ学習 7. 情報探索能力育成(実習) レファレンスツール利用 8. 情報探索能力育成(実習) インターネット利用 9. 情報発信能力育成(実習) Blog, Wiki, SL 等 10. 「総合的な学習」で学校図書館を利用する教案作成 11. 学習指導過程における学校図書館メディア・センターの利用 12. 学校図書館メディア・センター管理運営年間計画策定 13. 教師集団との協働 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業時に指示するが、大学図書館内のレファレンス・ツールを活用していくことを中心とする。</p>		<p>授業参加(出席など)・・・25% *実習以外は欠席として認めない</p> <p>課題(5×15%)・・・75%</p>	

	*****	担当者	*****
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報メディアの活用	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】学校教育においてその重要性が再認識され新たな役割を担うことが期待され始めた学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。</p> <p>【概要】まず、現在までの情報メディアの発達と変化を検討し、現代社会が高度情報社会であることを確認する。 また、各種情報メディアの特性について概観した後、学校教育の目的や状況に応じてどのようなメディアを選択すべきかも考察する。 次に、視聴覚メディア、インターネット、データベース、教育用ソフトウェアといったツールごとに、その活用方法について学校教育との関わりを見ながら具体的に論じていく。 そして最後に、学校図書館メディアと著作権の関わりを講じ、また、講義全体のまとめを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：年間予定、授業方法等の注意事項について説明 2 高度情報社会と学校教育；情報メディアの特性と選択 3 学校教育における視聴覚メディアとコンピュータの活用 4 インターネットによる情報検索と発信(1) 5 インターネットによる情報検索と発信(2) 6 前半部分のまとめ；質問受付 7 オフラインデータベースと情報検索(1) 8 オフラインデータベースと情報検索(2) 9 最新の情報メディア(1) 10 最新の情報メディア(2) 11 学校での取り扱いに注意すべき情報 12 学校図書館メディアと著作権 13 授業全体のまとめ；質問受付 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

【MEMO】

シラバス 免許課程

2008年4月1日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1663



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学 年	氏 名
学科	年	